（別紙1） 本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	真壁　朝敏	所　属	工学部　工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	留学生を含む大学院博士前期の院生の指導を行い、彼らの研究論文執筆に協力する。また、学部学生の講義にあたっては、前年度の指摘に注意しながら講義を行い改善する努力をする。院生の学会講演会の参加に協力する。	0.35	留学生を含む大学院博士前期の院生の研究指導を行い、学会等で成果を発表させた。また、それらの一部については論文投稿し受理されている。学部の講義に際しては、前年度に指摘された事項に注意をしながら、専門の基本事項を丁寧に説明する等の努力をした。
研究	0.30	1編以上の論文を国内あるいは国外の論文集または学術誌に投稿する。国内あるいは国際会議等で発表をするように心がける。エネルギー機器に関係した研究について実験的な研究をすることを目標にし外部資金の獲得に努力する。他大学との共同研究項目を検討する。	0.30	院生とともに1編以上の学術論文を投稿し受理されている。また、複数の国際会議に参加し、研究成果を発表している。エネルギー機器に関連した研究での外部資金を獲得し、特許を出願した。熊本大学とマグネシウム合金の疲労に関する共同研究を行っており、成果を公表している。
社会貢献	0.25	4月に北九州で開催される国際会議（MSAM2018）のConference General Chair、8月に沖縄で開催され国際会議(ICMESM 2018 & ICDMM 2018)のLocal Chairを務める。沖縄科学技術振興センターの主催する共同研究事業に協力する過程で企業と連携する。	0.25	4月に北九州で開催された国際会議（MSAM2018）のConference General Chair、8月に沖縄で開催した国際会議(ICMESM 2018 & ICDMM 2018)のLocal Chairを務めた。沖縄科学技術振興センターの主催する共同研究事業に協力し、旭化成エンジニアリング株式会社と連携して行った成果を公表した。
管理運営	0.10	教授会等の会議においてコースの立場での発言を行うよう努力する。機械システム工学専攻主任等の担当する委員の役目を果たすように努力する。	0.10	教授会等の会議においてコースの立場での発言を行うよう努力した。機械システム工学専攻主任等の担当する委員の役目を果たすように努力した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐　学外公表に同意しない。　　☐　学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	屋我　実	所　属	工学部　工学科　機械工学コース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.50	機械システム工学科教育目標に即した講義（流体力学I1組と圧縮性流体力学）を行う。 成績の評価基準を明らかにして、希望する学生に公にする．またいつでも問い合わせができるように，対応を考える． 指導大学院生に学会で研究成果の発表をさせる。就職担当として企業と学生のスムーズな情報共有を促進し、進学・就職を活性化させる。またインドからの留学生を受け入れ、学生の国際交流を活性化する	0.60	機械システム工学科教育目標に即した講義（流体力学I，IIの1組と圧縮性流体力学（中間主，夜間主））を行い，工学的な考え方の習得に寄与した．特に講義において間違いやすい部分を抽出し配布することで，工学的考え方の徹底をはかった．また指導大学院生を学会で発表させた． 　就職担当として，企業と学生のスムーズな情報共有の促進ができ，進学・就職の活性化に努めた．またインドからインターンシップ学生を受け入れた
研究	0.30	国際学会への参加および学術誌への投稿・掲載を目指す． 国際学会のコミッティーメンバとして、アジアで開催される国際学会に参加する。また今年度継続された科研費テーマの応用的な研究を行う。	0.20	国際学会のコミッティーメンバとして、アジアで開催される国際学会に参加し，学部間交流協定に関する調整を行った． 　採択された科研費についての研究を行い，次年度につながる研究成果を得た．
社会貢献	0.10	学外審査委員会の委員や委員長として、県内物づくりのレベルを向上させ、県内物づくりに対する環境作りを支援する。	0.10	ものづくりに関する学外審査委員会の委員長を務め，県内のものづくり環境を向上に寄与した．さらに浦添市のクリーセンターの更新にかかわる委員を務めた．
管理運営	0.20	学部国際交流委員として、工学部の国際貢献を進める。 大学院改革WGとして、大学院実質化・活性化に取り組む	0.10	学部国際交流委員として、工学部の国際貢献を進め，アイダン教授が主催する国際学会のアドバイザーとして，会議に参加した． また大学院改革WGとして、大学院実質化・活性化に取り組んだ
	0.00		0.00	
計	1.10		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	柴田　信一	所　属	工学部　工学科　機械工学コース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	工学基礎演習，材料加工学I，高分子合成論，機械システム工学実験I,IIおよび大学院博士前期課程において講義を行う．修士および学部の学生の研究指導を行う。	0.30	工学基礎演習、材料加工学I、高分子合成論、機械システム工学実験I，II、キャリアデザイン入門、工学概論、博士前期課程での講義を行い、修士および学部学生の研究指導を行った。
研究	0.40	得られた研究結果に基づき特許出願を行う．論文査読を行う。研究論文発表を行う．産学官受託および共同研究で外部資金を得る．	0.40	得られた研究結果に基づき、特許出願を行い、公開された。論文査読を行った。プラスチック研究会で研究発表を行った。受託研究および共同研究を各1件行い、外部資金を得た。
社会貢献	0.15	沖縄県事業推進委員会の審査委員として活動を行う．	0.15	沖縄県事業推進委員会の審査委員として活動を行った。上述の特許出願技術が県内企業の起業に貢献した。
管理運営	0.10	工学部予算委員会委員，生産エネルギー専攻主任として活動を行う．	0.10	工学部予算委員会、生産エネルギー専攻主任として活動を行った。
	0.05	学生の就職活動および大学院進学を支援する活動を行う．	0.05	研究室OBによる学生就職活動の援助を行った。また大学院進学を支援する活動を行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐　学外公表に同意しない。　　☐　学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	宮﨑　達二郎		所　属	工学部　工学科　機械工学コース	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	・演習を増やし，学生の理解度の向上を図る. ・学生実験においてTAを有効に活用し，教育効果の改善を試みる.	0.35	・演習問題を確保し，学生の理解度が向上するように心がけた. ・学生実験でTAを活用し，実験中に学生が質問しやすいように心がけた.
研究	0.35	・学会誌に論文を投稿する. ・学会で研究発表を行う.	0.35	・日本機械学会論文集に論文が掲載された. ・M&M2018で1件の発表を行った.
社会貢献	0.10	・オープンキャンパス等で，研究成果を紹介する.	0.10	・オープンキャンパスで，研究内容および成果の紹介を行った.
管理運営	0.20	・3年次編入，大学院等の入試業務に携わる．ください	0.20	・3年次編入，大学院入試（一般2次募集）の試験問題作成を担当した.
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。	□　学外公表に同意しない。　□　学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	照屋　功	所　属	工学部　工学科　機械工学コース	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	・学生の理解を確認し、学生が「わかった」の実感を持つ授業を目指し、授業評価アンケートの総合評価「ふつう」以上が75%を超えるよう努める ・怠惰欠席防止および学生からの質問や意見取得促進を目的とした欠席通知メールを授業欠席者へ送るシステムをTAとともに構築し、実行する	0.30	・授業中再三学生の理解を確認するよう努め、学生から質問が出るようになった。アンケート総合評価は「ふつう」以上が約90%と高い評価を得た。 ・「機械設計技術者試験」対策講座講師として他の学科内有志教員と共に学生を指導し、担当科目について学生の理解度を向上させることができた。 ・毎回授業後に欠席学生へ出席を促すメールを送ることにより「声かけ」をおこなった。欠席学生から反省メールなどもあり、概ね好評であった。
研究	0.30	・学会講演会等への参加や報告発表 ・企業との共同開発研究への参加	0.30	・日本機械学会講演会に参加し、研究発表した。 ・講演論文１件。 ・企業の開発研究に卒業研究指導により関わった。
社会貢献	0.05	・地域、社会等へ向けた学部、学科・コースや研究内容の紹介 ・県内外の工業界との交流	0.05	・学科HPなどで研究内容、設備、学部、学科・コースの紹介をした。 ・「機械の日ちびっこエンジニア体験教室」を実施し、学部・コースPRをした。 ・学生の就職活動に関して県内外の企業の方々と交流を持った。
管理運営	0.30	・大学院や特別編入等の入試問題作成、その他の入試関連業務 ・工学部代議会委員としての活動 ・工学部情報委員会委員としての活動	0.30	・大学院や特別編入等の入試問題作成、その他の入試関連業務をした。 ・工学部代議会委員として活動をおこなった。 ・工学部情報委員会での活動をおこなった。
進路指導	0.05	・夜間主コース４年次指導教員として学生の就学・進学・就職等の相談（年次別懇談会、その他） ・研究室、その他の学生への進路指導	0.05	・夜間主コース４年次指導教員として学生の就学・進学・就職等の相談（年次別懇談会、その他）をおこない、学生を指導した。 ・研究室、その他の学生への進路指導をした。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐　学外公表に同意しない。　　☐　学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	藤川　正毅	所　属	工学部　工学科　機械工学コース	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	学生が積極的に参加・発言できるような授業ができるように努力する．具体的には，授業と実験の目的やその工業的価値などを明確にして、学生が興味をもてる様に努力する．また，学生の理解度を確認しながら、お互いにコミュニケーションをとれるような授業環境を心がける	0.35	学生の興味やモチベーションの向上を目的として，講義や実験内容が社会でどのように役に立つのかも伝える授業を心掛けた．また少人数の実験では，できるだけディスカッション形式で行い，理解度を確認しながら進めるようにした．
研究	0.40	学会誌への複数の論文投稿を目標に研究を進める．また，外部資金や共同研究の獲得を目指す．	0.40	国内外に論文を投稿し受理された(ジャーナル2編，査読付き国際学会2編)．共同研究3件，受託研究１件を獲得した．
社会貢献	0.15	研究に関する学会活動や勉強会に参加する	0.15	機械の日のイベントに参加して，子どもたちと物づくり体験を行った（速く走るミニ四駆づくり）．また，日本ゴム協会の力学研究分科会の勉強会・講習会に参加した．
管理運営	0.05	教授会，学科会議に積極的に参加する。また，学科内および学部内等の各種委員会に参加し協力する。	0.05	今年度は研究推進委員，レクレーション委員として活動した．また特別な予定がある場合を除いて，全ての会議に出席した．
進路指導	0.05	日ごろから学生の希望する進路や興味などを聞くようにし、状況を把握・そして適切に指導できるように準備を心がける．また，履歴書の書き方や面接など助言をする．大学院進学を考えている学生には，そのメリットや研究の興味などを可能な限り伝えれるように資料作成・面談を行う．	0.05	学生からの進路相談の対応，履歴書の書き方などを指導した．また各活動状況について，積極的に確認・サポートするように心がけた．
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

□　学外公表に同意しない。　　□　学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	石川　正明	所　属	工学部　工学科　機械工学コース	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	・　学生実験のレポートの提出状況をよくするために，メール等活用する. ・　講義の欠席数を減らすために，欠席する学生へメールなどでコミュニケーションを取り，指導する. ・研究室学生に対し，メールまたはゼミ中に就職情報を提供をするとともに，就職状況を把握する.	0.30	・実験レポートの提出の遅れている学生へメールして，若干名の学生が応じて提出し，評価することができた. ・欠席管理システムにより，指定数を超えた学生にはメールにて講義出席を促した. ・研究室学生の就職状況を，ゼミ等の顔を合わせる際に確認し，全員就職または進学ができた.
研究	0.60	・　国内会議へ積極的に参加し，研究成果を発表する. ・　1編以上の論文を投稿する.	0.60	・混相流シンポジウムおよび可視化情報シンポジウムで，講演を行った. ・1編，可視化情報学会へ論文投稿をした.
社会貢献	0.10	・　小学生向けにエンジニアリング体験教室を実施する. ・　日本混相流学会における委員会で活動する. ・　可視化情報学会においてオーガナイザーとしてOSを開く.	0.10	・エンジニアリング体験教室で，小学生にジャイロ実験やシャボン玉作成，さらに紙飛行機飛距離競争などを行った. ・混相流学会研究企画委員として，混相流シンポでOSを開いた. ・可視化情報シンポのOSを開いた.
管理運営	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐　学外公表に同意しない。　　☐　学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	水口　尚	所　属	工学部　工学科　機械工学コース	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学生とのコミュニケーションの機会を多く取るように努力する. 担当する学生実験、機械製図の補足資料などを準備し、学生の理解を高める努力を行う. 指導担当の3年次昼間主コース（2組）の学生の履修指導を行う. 卒業研究・修士課程の学生の研究指導を行い、学会などの学外での発表に積極的に参加してもらう.	0.30	オフィスアワーの時間帯やメールアドレスを居室のドアに掲示した. 学生実験（前期：昼・夜間主コース1テーマづつ、後期：昼間主コース1テーマ）と機械製図において補足説明の資料を作成・Webclassにて配布し、説明を行った. また、機械製図では、学生からの授業改善アンケートの総合評価でふつう以上が100%であった. 3年次2組の学生の履修指導を行った. 特に修得単位不足（半期10単位未満）の1名の学生については面談を行った. 修士課程の学生1名への研究指導と配属された卒業研究の学生3名に対して研究・就職指導を行った.
研究	0.60	研究成果をまとめ学術講演会に積極的に参加し、学術論文を投稿する.	0.60	研究成果をまとめ、国内学会（2件）、国際学会（1件）で発表した. なお、国際学会での発表内容が「Recent Advances in Technology Research and Education」に掲載された.
社会貢献	0.05	化学工学会の沖縄化学装置懇話会の活動を通して地域産業への貢献を行う.	0.05	沖縄化学装置懇話会の庶務幹事として宮古島で開催された一般公開ゼミナー（11月）に尽力した.
管理運営	0.05	工学部の琉球大学工学部・沖縄工業高等専門学校教育研究推進委員、施設・環境委員を担当する.	0.05	工学部の琉球大学工学部・沖縄工業高等専門学校教育研究推進委員、施設・環境委員としてコース内外の連絡調整を行った.
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	斉藤　正敏	所　属	工学科　エネルギー環境コース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	1. エネルギー材料工学において禁止帯が生ずる事を示す理論の詳細な導出及び物理的説明、ネルンストの式を理解するために自由エネルギーの詳細な導出を解説する。更にバンド構造及び自由エネルギー理解の為演習問題を夫々1コマ用意する。 2. 工学演習においてマックスウェルの電磁方程式からファンデルポーの式まで導出し、その過程での詳細な説明により、ホール効果を理解できるように講義を行う。 3. 配属された卒論生の就職活動及び進学の支援を行う	0.40	1. エネルギー材料工学において標記内容の説明および演習を行い、単位取得率90%となった。 2. 工学演習において標記内容の説明、導出を行い、ホール係数測定法がいかに構築されたかを理解させたのち、学生による測定システム構築を行い、測定を実行した。 3.　5名の卒論生の内、1名海外留学、4名就職であり、各人にあった卒研計画を立て、実行した結果、全員希望通りになった。
研究	0.40	1.　Mn電析薄膜のStep-Terrace-Kinkに関する論文を投稿する 2. Sn電析薄膜の$\alpha-\beta$相転移及びウイスカー形成に関する論文を投稿する 3. Snの半導体化、金属間化合物MnSn2、ウイスカー形成とSK相転移、Ni-Co薄膜の超格子形成、Co-Ni-Fe電析薄膜に関する研究を着手する。	0.40	1.　Mn電析薄膜のStep-Terrace-KinkについてInt. J. Electrochem. Sci., 13 (2018) 1869に掲載 2. Sn電析薄膜の$\alpha-\beta$相転移及びウイスカー形成についてInt. J. Electrochem. Sci., 13 (2018) 4596に掲載 3. Co-Ni薄膜の共鳴電析についてInt. J. Electrochem. Sci., 13 (2018) 305に掲載
社会貢献	0.10	1.　Editorial Boardのメンバーとして三つの欧文誌electrochemistry、corrosion、ISRN　materials scienceをサポートする活動、査読、出版物の提言、助言等の仕事を行い3誌の国際的評価向上及び学問の発展に寄与する。 2.　欧文誌の査読依頼を積極的に引き受ける。	0.10	1と2. J.Solid. Electrochem.から1件、Surf. Coat. Technol. から1件の論文査読依頼があり、引き受けた。特にSurf. Coat. Technol.の査読依頼論文は、review　paperであったため、95ページあったが、査読締め切り1週間内に査読を終了した。
管理運営	0.10	予算委員としての仕事を行う。	0.10	1. 予算委員会委員長として学部長、評議員、事務長と共に、大学の各学部への予算説明会にて意見を述べた。 2. 科研費アドバイザーとして学内の科研費申請者1名の申請書類について説明不足な箇所、審査員に理解しやすくるための改善案等の指摘を3度行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐　学外公表に同意しない。　　☐　学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	古川 俊雄	所　属	工学部　工学科　エネルギー環境工学コース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	これまでの授業アンケートを参考に、授業に占める演習の割合を多めにして、学生の理解度が増すように努める。また、学生が興味を持てるように、科目の位置づけや実際例を含めた授業を行う。 工学部後援会で就職説明会とキャリア形成支援セミナーを行い学生の就職活動の支援を行う。	0.40	これまでの授業アンケートを参考に、授業に占める演習の割合を多めにして、学生の理解度が増すように努めた。また、学生が興味を持てるように、科目の位置づけや実際例を含めた授業を行うことにより、学生の単位取得状況も良かった。 工学部後援会で12月にキャリア形成支援セミナーを行った。また3月中旬に2日連続の就職説明会を開催し学生の就職活動の支援を行う予定である。
研究	0.35	関係する学会講演会等に参加し最新の研究成果の知見を得るとともに可能な限り研究発表を行う。研究成果をまとめて学術誌等に投稿し、掲載されることを目指す。論文校閲依頼があれば積極的に引き受ける。	0.35	3月中旬に開催される日本機械学会関西支部講演会に参加し研究発表を行い、最新の研究成果の知見を得る予定である。3月下旬に開催される日本材料学会マルチスケール材料力学部門委員会に出席し、新しい知見を得る予定である。また、海外から論文校閲依頼があり積極的に引き受けた。
社会貢献	0.10	工学部後援会の就職説明会や理事会・総会の円滑な運営に努める。	0.10	工学部後援会の就職説明会や理事会・総会の円滑な運営に努めた。3月に開催される日本機械学会関西支部講演会では座長を依頼され引き受けている。
管理運営	0.15	学科会議（コース会議）、教授会、学部戦略会議、研究科委員会（前期・後期）、代議会、学部委員会、全学委員会等で円滑な運営に協力する。	0.15	学科会議（コース会議）、教授会、学部戦略会議、研究科委員会（前期・後期）、代議会、学部委員会、全学委員会等で円滑な運営に協力した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	倉田耕治	所　属	工学部　工学科　エネルギー環境工学コース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.45	機械力学（機械システム工学科昼間主1組，2組，夜間主，1組と2組は必修），確率と統計（エネルギー環境工学科 必修），基礎制御工学（エネルギー環境工学科 必修），信号処理工学（機械システム工学科）の授業を行う．授業の最後の二，三回で集中的に演習を行うことで，成績と単位取得率の向上を図る．信号処理工学ではより実践的な教科書を新たに採用する．特別コースのNeural Network Modelingでは，受講生のオリジナルな問題の解決を試みる．	0.45	機械力学，確率及び統計，基礎制御工学，信号処理工学の授業を行った．授業の最後の二，三回で集中的に演習を行うことで（アンケートに好評あり），成績と単位取得率の向上を図った．信号処理工学ではより実践的な教科書を新たに採用した．学期の終盤で、教科書を離れて人工知能について解説した部分は、アンケートでも好評が多かった．Neural Network Modelingは受講者がいなかったので、開講しなかった．
研究	0.40	大学院生，他大学（岡山理科大学，宮崎大学等）との共同研究をおこなう．学会，研究会発表または論文発表2～3件程度．	0.40	学外発表4件．
社会貢献	0.05	電子情報通信学会論文誌の査読委員を務める．依頼があれば一般向けの講演会，学会，研究会の座長，顕彰評価委員などをおこなう．	0.05	日本神経回路学会（電子情報通信学会と共催）全国大会において，査読を行った．
管理運営	0.10	エネルギー環境工学コースの施設・環境委員を務める．	0.10	エネルギー環境工学コースの施設・環境委員を務めた．委員会に出席し，エコクリーンデイの活動記録写真を撮り、報告書を作成提出した．その他に、（個別入試）調査書審査委員長，私費外国人留学生入試選考委員長．
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	瀬名波　出	所　属	工学部　工学科　エネルギー環境工学コース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	1) エネ環用必修科目・熱力学を開講する. 2) 熱機関工学（昼・夜）、機械工学概論、機械工学演習等：専門選択科目の担当. 3) 機械システム工学科3年次1組学年指導教員 4) 研究室学生の研究指導および進学や就職指導 5) 修士学生の学会発表指導	0.30	目標項目： 1) エネ環用必修科目として、新規科目「熱力学」を開講した. 2) 機械システム工学科科目として、熱機関工学（昼・夜）、熱力学Ⅱ、機械工学演習の担当、学部横断型授業科目の機械工学概論の担当をした. 3) 機械システム工学科3年次1組学年指導教員として、学年指導、3年次合宿研修引率などを行った. 4) 研究室学生の研究指導および進学や就職指導として卒業研究（4テーマ：主指導4名），修士研究指導3名（主指導教員3名、副査2名）の指導を行った. 5) 修士学生の国内学会発表指導：国内学会2件（修士2名）の指導を行った. 追記： ●日本工学協会第66回年次大会にて、アクティブラーニングに関する講演発表を行った. ●GEプログラム／海外インターンシップ支援リーダーとして、台湾科技大学、台北城市科技大学、中原大学に出向き、これらの三大学とそれぞれ琉球大学との大学間交流協定を結んだ. ●GEプログラム／海外インターンシップ支援リーダーとして、大学院1年8名の学生の台湾科技大学国際サマースクールへの初参加指導・引率を行った. ●糸満市において、国際電気自動車レース委員長として大会運営および小中高生への講演・普及促進活動を行った. ●南城市のなんじょう産学官連携人材育成協協議会委員として教育支援活動に携わった. ●中高生を対象としたマリンチャレンジプログラム九州地区大会決勝の審査員. 以上より、年度目標は十分に達成したと考える.
研究	0.30	1) 関係する学会等において積極的に研究発表を行う. 2) 成果をまとめて学会誌へ論文投稿し，掲載されることを目指す. 3) 外部資金の獲得を目指す.	0.25	目標項目： 1) 関係する学会等において積極的に研究発表を行う：国内学協会・セミナーにて5件の発表を行った.うち2件は特別講演. 2) 成果をまとめて学会誌へ論文投稿し，掲載されることを目指す：2本の査読付きJournal論文紙に投稿。1本が採択・発行された. 3) 産官学協力型研究PJ化を進める.（外部資金の獲得を目指す）：3件のPJ型研究（外部資金）を獲得した ●H30年度沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業：研究代表者 ●H30年度IoT利活用促進ネットワーク基盤構築・実証事業:研究代表者 ●H30年度糸満市「新たな養殖技術による海ブドウ生産実証事業に関する調査」事業：研究開発責任者 追記： ●琉球大学重点特別研究（萌芽）推進経費採択：「離島におけるエネルギー・環境資源のベストミックス」研究責任者 ●琉球大学重点特別研究推進経費採択：「産学連携による琉球大学スマートハウスプロジェクト」メンバー ●研究成果の主な広報活動： ⅰ)糸満市産学連携事業が県内TVニュースにて紹介(2018.7) ⅱ)糸満市産学連携事業が地方創世業界メディア（Web記事）にて紹介(2018.7) ⅲ)琉球新報にて久米島エネルギーFS調査事業プロジェクト紹介記事掲載(2018.9) ⅳ)琉球テックプランターにエントリーし、グランプリ受賞・沖縄銀行特別賞受賞（2018.10） ⅴ)第3回おきなわマリンサイエンスワークショップにて講演 ⅵ)新価値創造展（東京ビックサイト）にて主催者推薦により出展、および特別講演（2018.11） ⅶ)沖縄銀行主催・ビジネスコンテストX-Tech Innovationで講演 以上より、年度目標は十分に達成したと考える
社会貢献	0.20	1) 産業支援の一つとして専門分野の知見および研究成果を公開していく。 2) 学協会活動への協力	0.25	目標項目： 1) 産業支援の一つとして専門分野の知見および研究成果を公開していく。： ●平成30年度 地域の特性を活かしたエネルギーの地産地消促進事業【久米島町における「沖縄初、沖縄離島シュタットベルケ 島嶼マイクロコミュニティ構想」の事業化可能性調査】委員長 ●沖縄県「研究シーズ人材育成事業」委員長 ●沖縄県「海洋温度差発電における発電後海水の高度複合利用実証事業」委員 ●沖縄県「成長分野リーディングプロジェクト創出事業」委員 ●国際電気自動車レース委員長（糸満市） ●なんじょう産学官連携人材育成協協議会委員（南城市） 2) 学協会活動への協力： ●日本機械学会論文集校閲委員 ●論文査読2件（国際誌2件） 以上より、年度目標は十分に達成したと考える
管理運営	0.20	1) H30年度産官学連携推進部門研究支援系長 2) H30年度発明審査委員会委員副委員長 3) H30年度工学部国際交流委員会委員 4)工学部GEコースプログラムリーダー	0.20	目標項目： 1) H30年度産官学連携推進部門研究支援系長として毎月3回の会議に参加、学内シーズ研究と学外企業ニーズとのマッチングサポートを行った. 2) H30年度発明審査委員会委員副委員長として毎月委員会に参加. 3) H30年度工学部国際連携委員として委員会に参加 4)工学部GEコースプログラムリーダーとして、工学部国際連携委員会および教育委員会に参加 追記： ●台湾の台湾科技大学、台北城市科技大学、中原大学に趣き，琉球大学主担当教員としてこれらの三大学とそれぞれ琉球大学との大学間交流協定を結んだ. 以上より、年度目標は十分に達成したと考える
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	近藤　了嗣	所　属	工学部　工学科　エネルギー環境コース	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	講義に関して、専任科目では授業評価アンケートで本学教育目標にある「普通」以上7割達成を目指して継続的改善に努める。共担科目では「普通」以上7割達成に貢献できるように努める。証拠資料は保存資料とする。また、エネルギー環境工学コース2期生の年次指導教員を務める。なお、評価者の評価結果が公開されたH23年度から毎年、目標を達成すると共に評価Aを戴いており、本目標設定は妥当と考えられる。	0.40	専任科目、共担科目共に「普通」以上7割を達成した。前学期専任科目の機械システム設計製図ではエンジニアリング・デザイン教育のため、課題の自己設定、自己解決、自己評価、これらのグループワークを実施した。CAD演習に関して、フリーソフトの鍋CADを教材に採用し、授業環境改善に取り組んだ。また、新コースの工業数学Ⅲでは、演習課題のグループワークを導入し、大幅な授業改善に取り組んだ。結果、高い単位取得率が得られた。大学院の講義として機械基礎工学特論Ⅰ、Ⅱを前・後学期開講して提供科目の充実に貢献した。専任科目では「普通」以上、10割を達成した。今年度の目標以上を達成した。また、JSEE（日本工学教育協会）第66回年次大会にて“CAE課題における科目間連携と協働の効果”について講演を行った。卒業研究の担当学生に対して、定期的に進路相談の時間を用意した。結果、進路が決まり、当初の目標を達成した。
研究	0.25	現在、遂行中の研究課題に関する成果発表を目標とする。なお、研究進捗状況や研究予算、原稿執筆から掲載までに要する時間などを考慮して、年間1件程度を目標とする。証拠資料は業績とする。なお、評価者の評価結果が公開されたH23年から毎年、目標を達成すると共に評価Aを戴いており、本目標設定は妥当と考えられる。	0.29	研究課題「金属多重結晶の疲労破壊と転位の運動・蓄積のマルチスケール解析」に関して他大学の研究者と共同研究を推進した。これらの結果に関して、JSME2018年度年次大会にて，現在，遂行中の研究課題“繰返し引張変形における過小荷重が後続変形挙動に及ぼす影響”に関して投稿した。また、九州学生会にて“繰り返し変形における荷重変動後の不均一変形と転位の運動・蓄積のマルチスケール解析”に関して学生発表を行った。よって、今年度の目標以上を達成した。
社会貢献	0.05	大学教員の立場と専門知識を活かして社会貢献に努める。証拠資料は関連資料とする。実務頻度は稀なため、業務ウェイトは0.05とするが、H25年度から毎年、評価Aを戴いており、本目標設定は妥当と考えられる。	0.01	JSME投稿論文査読委員を務めた。他の業務と比較すると比重こそ少ないが、専門分野の知識と大学准教授の立場を活かした業務であり、今年度の目標以上を達成した。
管理運営	0.30	学内の委員会委員を務める。証拠資料は関連資料とする。なお、評価者の評価結果が公開されたH23年から毎年、目標を達成すると共に評価Aを戴いており、本目標設定は妥当と考えられる。	0.30	学部では情報委員会と代議員を務めた。また、全学では発明審査委員会委員を務めた。学科・新コースでは1年次の年次指導教員を務め、年度行事の執行や進路指導に務めた。結果、入学時にコースの内容を勘違いしていた学生など本来の進路希望に適ったコース変更の実現等、今年度の目標以上を達成した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	安田　啓太	所　属	工学部　工学科　エネルギー環境工学コース	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.15	講義科目は工学基礎演習、エネルギー環境工学実験I、機械システム工学実験I、機械システム工学実験II、および機械システム工学演習を担当する。機械システム工学実験I・IIでは主担当として学生を指導する。学生がこれらの講義を通じてエネルギー環境工学や機械システム工学に対する理解を深めるよう、分かりやすい講義を志して取り組む。それぞれの講義ではTAに教育的立場からの視点を持たせることで資質向上を目指す。 また、機械システム工学科3年次の指導教員として各学生の個性を鑑みて指導する。 卒業研究の担当学生4名および修士の学生2名について、これまでに学んできたことの集大成として研究を取りまとめる過程で論理的思考能力の向上を目指す。.	0.15	講義科目として工学基礎演習、エネルギー環境工学実験I、機械システム工学実験I、機械システム工学実験II、および機械システム工学演習を担当した。工学基礎演習では複数教員の協力のもと、1年生向けに演習を行った。エネルギー環境工学実験では結晶成長を観察し、熱工学について学ぶ実験を新規に行った。機械システム工学実験I、IIでは伝熱に係る現象を実験を通じて理解できるよう指導し、また主担当として学生実験への取り組み方について講義した。機械システム工学演習では4年生を対象として流体工学・熱工学を背景とした題材を使用し、計画の実施からプレゼンテーションまで指導を行った。それぞれの科目において、TAの資質向上を目指し、主体的に教育活動を行うよう指導した。 機械システム工学科3年次の指導教員として、全体的な指導を行うとともに各学生がおかれた状況を鑑みて個別の指導も行った。 卒業研究の担当学生4名とは日常から議論を交わし、卒業論文作成までの過程にて研究に関連した論理的思考能力の向上に努めた。
研究	0.70	クラスレートハイドレートと呼ばれる水と“ゲスト物質”からなる化合物の物性を明らかにする研究および「微小微量ミストを付加した衝突噴流熱伝達」に取り組む。 研究成果はインパクト・ファクターが2を超える論文誌での発表を目指す。 年度内に2編投稿、1編採択を目標とする。 平成31年度科研費「若手研究」に応募予定である。	0.70	「クラスレートハイドレート生成系の相平衡条件測定」「クラスレートハイドレート生成系での結晶観察実験」「微小微量ミストを付加した衝突噴流熱伝達」に取り組んだ。前2件は海水淡水化にかかわる研究、後1件は伝熱促進にかかわる研究である。 研究成果として、「New Journal of Chemistry誌（IF2017: 3.201）」に1編、「The Journal of Physical Chemistry C誌（IF2017: 4.484）」に1編、「The Journal of Chemical Thermodynamics誌（IF2017: 2.631）」に1編、計3編の論文を発表した。 平成31年度科研費「若手研究」に応募を行った。
社会貢献	0.05	オープンキャンパスをはじめとした学外向けのイベント、「ちびっこエンジニア体験教室」などの社会貢献を目的としたイベントに積極的に参加する。	0.05	学外向けイベントならびに社会貢献を目的としたイベントとして、7月14日に開催された「オープンキャンパス」では研究紹介を行い、12月1日に行われた「ちびっこエンジニア体験教室」では運営委員を務め、また1月26日には「グローバルサイエンスキャンパス」の一環として高校生向けの講義を行った。
管理運営	0.10	工学部選挙管理委員長として各種選挙の公正な実施に努める。 エネルギー環境工学コース/機械システム工学科時間割担当として、改組に伴う時間割の変更に対応する。	0.10	工学部選挙管理委員長として教員選考選挙、学部長選挙、評議員選挙、学長選考に係る意向調査投票にて公正な実施に努めた。 また、時間割担当としてエネルギー環境工学コース/機械システム工学科の時間割編成を担当した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	米須　章	所　属	工学部　工学科　電気システム工学コース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	電磁気学Ⅲ、ベクトル解析、プラズマ工学特論を担当し、社会の要求を満たす水準の講義を行う。また、講義中に学生への質問などを行うことにより、学生が積極的に講義に取り組めるよう工夫する。研究室に配属された学生に対して就職指導および進学指導を行い、全員が希望の進路へ進めるよう支援・指導を行う。	0.40	予定通り、電磁気学Ⅲ、ベクトル解析、プラズマ工学特論を担当した。各講義では、毎回、小テストや講義中の学生への質問等を行い、学生が講義に積極的に取り組めるように工夫した。これらの結果、学生によるアンケートでも評価は高かった。また、研究室に配属された院生・卒研生7人に対し、進路について指導を行った。7人全員の就職・進学が決定した（就職5人、進学2人）。以上より、目標を達成することができた。
研究	0.25	プラズマ滅菌に関する研究を進め、成果を学術論文へ1件、国際会議などに3件以上投稿する。また、企業と共同研究を行い、外部資金の獲得を目指す。九州大学との共同研究を進める。	0.25	プラズマ滅菌に関する研究をすすめ、その成果を院生が3件の国際会議(国内2、国外1)で発表を行った。(その他、3月に国際会議に1件発表予定)。その成果を学術雑誌Plasma and fusion researchへ投稿した(現在査読中)。また、学術雑誌Vacuumへの掲載が決定した。さらに、サラヤ株式会社との共同研究を行い、外部資金を獲得した。また、プラズマ滅菌について九州大学との共同研究を行った。以上より、目標を達成することが出来た。
社会貢献	0.10	継続中の企業との共同研究を進め、プラズマ滅菌装置の実用化を目指す。	0.10	サラヤ株式会社と共同研究を行い、プラズマ滅菌装置へ搭載予定のプラズマガス処理システムの開発をすすめた。以上より目標を達成することができた。
管理運営	0.25	教育委員会委員長、電磁エネルギー科目検討委員会委員長、学士教育プログラム委員会委員、大学院教育プログラム委員会委員、社会連携委員会委員、電気数学科目検討委員会委員、電磁気学科目検討委員会として積極的に活動する。	0.25	教育委員会委員長、電磁エネルギー科目検討委員会委員長、学士教育プログラム委員会委員、大学院教育プログラム委員会委員、社会連携委員会委員、電気数学科目検討委員会委員、電磁気学科目検討委員会として積極的に活動した。以上より目標を達成することができた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐　学外公表に同意しない。　☐　学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	千住　智信		所　属	工学部　工学科　電気システム工学コース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	前学期は、学部担当科目（前期：エネルギー変換工学（昼間主）、電気法規及び設備管理、後期：電気機器Ⅱ（昼間主）、パワーエレクトロニクス（昼間主））を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。また、学生の復習を手助けするための演習を実施し、学生の授業理解を助ける。大学院博士前期課程学生8名、博士後期課程学生5名の研究指導ならびに卒業研究の指導（卒業研究生5名）を行う。研究室所属学生の就職指導と進学指導を綿密に行うことにより、研究室学生の進学・就職支援を行う。	0.20	前学期は、学部担当科目（前期：エネルギー変換工学（昼間主）、電気法規及び設備管理、後期：電気機器Ⅱ（昼間主）、パワーエレクトロニクス（昼間主））を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行った。また、学生の復習を手助けするための演習を実施し、学生の授業理解を深める工夫を行った。大学院博士前期課程学生8名、博士後期課程学生5名の研究指導ならびに卒業研究の指導（卒業研究生5名）を行った。研究室所属学生の就職指導と進学指導を綿密に行うことにより、研究室学生の進学・就職支援を行った。学部学生は、本学の博士前期課程に4名進学が内定し、1名は県内民間から内定を得た。博士前期課程学生の2名は本学の博士前期課程に進学が内定しており、他の博士前期課程学生も全員就職予定である。博士後期課程を短縮修了予定の学生も他大学の助教として4月から勤務する事が内定している。早稲田大学を中心とした電力・エネルギー系の卓越大学院が採択され、入試等の業務に協力した。
研究	0.20	研究論文3編以上の採択を目指す。科学研究費補助金の採択を目指す。また、外部資金獲得のために、各種財団へ研究助成金の申請を行う。海外の大学の研究者と共同研究を進め、研究成果を発表するとともに、学術交流を図る。	0.20	研究論文6編を国際学術雑誌へ掲載した。科学研究費補助金（研究基盤C）が採択された。また、沖縄県外殻団体であるOSTCへハワイとの共同研究に関する申請を行い外部資金を獲得した。その外部資金を活用してハワイ大学と共同研究を推進した。米国、インド、オーストラリア、エジプト、アフガニスタンの大学研究者と共同研究を進め、研究成果を発表した。JSPSの論博プログラムを活用してアフガニスタン国の研究者が博士論文を取得するための研究指導を行った。パワーアカデミー主催の「第1回 電気工学教材企画コンテスト」へ学生と共に応募し、（特別賞）として一般社団法人　日本電気協会賞を学生と共に共同受賞を果たした。
社会貢献	0.20	電気学会九州支部沖縄支所委員を務める。NEDOの技術カタライザーを努める。子供工作教室等に参加し、ものづくりの楽しさを小中学生へ伝える。スマートシティを対象とした講演会の講師を務める。電気学会、IEEE等の論文査読を行う。	0.20	電気学会九州支部沖縄支所委員を務め、沖縄支所講演会を開催した。NEDOの技術カタライザーを務めた。子供工作教室等に参加し、ものづくりの楽しさを小中学生へ伝えた。琉球大学未来共創フェアへ参加し、琉球大学における地域貢献の状況を地域の方へ説明した。浦添市の浦西地区におけるスマートシティを対象とした講演会の講師を務めた。電気学会、IEEE等の論文査読を行った。那覇市、宮古島市等の各種委員会委員を務め、地域の発展に貢献した。
管理運営	0.40	下記に示す学科内、学部内、学内各種委員会委員を務め大学組織の管理運営に寄与する。特にコース内ではコース長を務めると共に各種委員会委員を担当する。さらに、全学では総合情報処理センター長を務め学内情報処理システムの安定運用と情報セキュリティを保持するための業務に従事する。 コース：コース長、就職担当 工学部：副学部長、代議会委員、将来計画委員会委員、入学試験委員会、自己評価・年度計画委員会、大学院理工学研究科学務委員会委員長、研究推進委員会委員、国際交流委員会委員 全学：総合情報処理センター長、研究推進会議委員、グローバル教育支援機構会議委員	0.40	下記に示す学科内、学部内、学内各種委員会委員を務め大学組織の管理運営に寄与した。特にコース内ではコース長を務めると共に各種委員会委員も担当した。さらに、全学では総合情報処理センター長を務め学内情報処理システムの安定運用と情報セキュリティを保持するための業務に従事した。さらに本年度から設置された工学部附属地域創生研究センター長も務め工学部の地域貢献活動も行っている。今年度から設置された琉球大学開学70周年記念誌編集専門部会の委員を務め、記念誌の取りまとめをおこなっている。 コース：コース長、電気電子系コース就職担当 工学部：副学部長、代議会委員、将来計画委員会委員、入学試験委員会、自己評価・年度計画委員会、大学院理工学研究科学務委員会委員長、研究推進委員会委員、国際交流委員会委員、地域創生研究センター長 全学：総合情報処理センター長、研究推進会議委員、グローバル教育支援機構会議委員、琉球大学開学70周年記念誌編集専門部会委員
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。	□　学外公表に同意しない。　　□　学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	浦崎　直光	所　属	工学部　工学科　電気システム工学コース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	・学部講義においては、WebClassの活用を拡大した講義を実施する。 ・大学講義においては、受講生の半数が留学生であるため英語による講義を実施する。 ・１年次指導教員として、新入生の履修指導を徹底する。 ・研究室学生の研究指導ならびに進路支援を行う。	0.30	・学部講義（工業数学Ⅲ、電気応用工学）において、講義資料、解答例ならびに出欠状況の提供ならびに宿題（一部）をWebClassを活用した。 ・大学院講義は主言語を英語で実施した。 ・オリエンテーションならびに年次別懇談会にて、履修指導を実施した。
研究	0.45	・共同研究を確実に遂行する。 ・科研費以外にも助成金へ応募する。 ・国際会議へ論文投稿を行う。 ・学術論文誌へ投稿する。	0.45	・共同研究については、今年度の目標を達成し、次年度も継続することになった。 ・学内の研究プロジェクト推進経費に採択された。 ・不採択ではあったが、「地球規模課題対応国際科学学術協力プログラム」に応募した。 ・国際会議にて、指導した大学院が研究成果（１件）を発表した。 ・学術論文誌に、指導した留学生の研究成果（１件）が掲載された。
社会貢献	0.05	・電気学会及び電子情報通信学会の各種委員としての役目を果たす。 ・沖縄電気安全・使用合理化委員としての役目を果たす。 ・技術相談等の要求があった場合は適切に対応する。	0.10	・電気学会では、半導体電力変換技術委員として、研究会開催の世話人を務めた。 ・電子情報通信学会では、学生会顧問（論文担当）として、学生会講演会の運営に携わった。
管理運営	0.10	電気電子系の各種委員として以下の役割を遂行する。 ・専攻主任：電気電子工学専攻の管理運営 ・学部入学者選抜委員：入試業務の取りまとめ 学部ならびに全学に関する担当委員についても責務を果たす。	0.15	・電気電子工学専主任として、本専攻の運営を行った。 ・学部入学者選抜委員長ならびに入試WGとして、主にコースの特別入試ならびに学部全般の入試業務を実施した。 ・全学委員として、ハラスメント調査委員会の委員長を務めた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	比嘉　広樹		所　属	工学部　工学科　電気システム工学コース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.38	(1)学部の講義（前期：技術者の倫理(昼間主、夜間主)、後期：回路理論I、工学概論）を担当し、URGCCの推進に努める。 (2)大学院の講義（医用電子工学特論）では、英語による講義を実施する。また最新の研究成果を受講学生に提供する。 (3)1年次指導教員を担当し、学生の修学に関する指導を行う。 (4)研究室配属学生の進路希望を調査し、早期に適切な進路を決定できるように指導する。	0.38	(1)今年度、学部の講義（技術者の倫理、回路理論I、工学概論1コマ）を担当し、URGCCの基準を満たす講義・演習指導を行った。 (2-1)大学院の担当講義(医用電子工学特論)において、すべて英語による講義を行い、最新の研究成果と最近の話題を受講学生に提供した。期末試験やアンケート等の結果から、ほとんどの受講学生が講義内容を理解できていることが確認できた。 (2-2)昨年度と同様に、Frontiers of Engineering の講義(1コマ)を担当し、英語による講義を行い、生体医工学に関する最新の話題を提供した。課題の結果から、受講学生が講義内容を理解できていることが確認できた。 (2-3)医学部にて、学部の講義（医用電工学）を担当した（2コマ×８週間）。演習や期末テストの結果から、受講学生が講義内容を理解できていることが確認できた。 (3-1)担当した1年次学生に対し、適切な修学指導を行えた。 (3-2)電気電子系2コース1年次学生に対し、1年次ゼミ（前学期）を実施した。 (4)研究室の学部学生6名の進学・就職に関する指導を行い、全員の進路と就職先が決定した。
研究	0.32	(1)研究成果の学会発表を1件以上行う。 (2)外部資金の獲得に努める。 (3)本学医学部や他の医療機関との共同研究を行い、臨床現場で利用可能なシステム開発に取り組む。 (4)IEEE EMBC等の論文査読を行う。	0.32	(1)国際会議IEEE EMBC2018において研究発表2件（Hawaii(7月)）を行った。また研究室の学生を指導し、国内にて 8件研究発表（琉球大学工学部、12月）を行わせた。 (2)本年度、1件の外部資金（宇流麻学術研究助成）を獲得した。また企業との共同研究を実施し、2件の寄附金を獲得した。来年度も引き続き、外部資金獲得に努める。 (3)本学医学部との共同研究を実施し、AR（Augmented Reality）を用いた医療支援システムの開発に取り組んだ。 (4) IEEE EMBC2018 に投稿された 8件の論文査読を行った。
社会貢献	0.15	(1)出前講座を実施し、地域の高校生に対して工学科のPRを行うとともに、研究成果の一部を社会に還元できるように努める。 (2)オープンキャンパス等のイベントを活用して、積極的に研究紹介を行い、研究成果の情報発信を行う。 (3)地域の中学生らに研究内容を紹介し、電気電子工学分野の楽しさ・面白さを伝える。	0.15	(1-1)サイエンスプロジェクトにてラボツアー「体の中で起こっている電気のすごい働き」（12月8～9日、受講者：中高生、8名）を実施し、電気電子系2コースの紹介と、生体医工学分野の紹介を行った。また工学部新コースの新しい入試制度について周知した。アンケートの結果等から本講座が好評であることが判明し、研究成果の一部を地域社会に還元できた。 (1-2)グローバルサイエンスキャンパスにて講義「身体の中で起こっている電気！のすごいハタラキ！！」（12月15日、受講者：高校生11名）を実施し、電気電子系2コースの紹介と、生体医工学分野の研究紹介を行った。アンケートの結果等から本講義が好評であることが判明し、研究成果の一部を地域社会に還元できた。 (2)学内にて開催されたオープンキャンパスにて参加者（高校生や高校教諭）に研究紹介を行った（7月14日）。 (3-1)公開講座にて「ロボットをつくろう」（8月5日、受講者：中学生10名）を実施し、電気電子系2コースの紹介、生体医工学分野の研究紹介及びロボット製作と電子工作の指導を行った。また工学部新コースの新しい入試制度について周知した。アンケートの結果等から本講座が好評であることが判明し、研究成果の一部を地域社会に還元できた。 (3-2)南風原町で開催されたはえばる福祉まつりにて「三線演奏支援装置」（11月4日、参加者：一般市民）の研究紹介とデモンストレーションを実施した。これにより、研究成果の一部を地域社会に還元できた。 (3-3)厚生労働省委託事業「沖縄県介護ロボットニーズ・シーズ連携協調協議会」（年4回）に出席し、介護ロボット等に関する情報提供を行った。 (3-4)琉球大学未来共創フェア2019にて「君にもできる！すてきなロボットの作り方」ブース出展（3月23日、奥武山公園・沖縄県立武道館、参加者：一般市民）し、地域の小中高校生対象にロボットの製作と電子工作の指導を行った。電気電子系2コースの紹介も行った。
管理運営	0.15	学部、学科の各種委員会活動を積極的に行う。	0.15	(1-1)大学院改組WG委員、学科の情報関係科目検討委員として活動を行った。 (1-2)教育改善委員会の委員長として、学科の外部評価委員会を実施し、委員会のとりまとめを行った。 (1-3)工学部の施設・環境委員会委員長として、委員会のとりまとめを行った。 (1-4)科目検討委員会委員長として、回路理論関係と電子システム関係に関連する活動を実施した。 (2)教授職員会の代議員として活動を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　　□　学外公表に同意しない。　　□　学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）					
名　前	山本　健一	所　属	工学部　工学科　電気システム工学コース	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学部授業（前期2科目，後期2科目，合計8単位），大学院講義(2単位)を担当する．学部生向け講義ではホームページを開設し，予習復習に役立つように工夫する予定．大学院授業では英語テキストを用いて講義する予定．卒業研究と就職活動指導を行う．また，学部3年次およびM2指導教員を務める．	0.30	学部授業、大学院講義ともに予定どおり実施した。授業の演習などホームページを利用した情報共有に活用した。また、次年度の新担当の準備を行った。卒業研究と就職活動では4名の学生に対応し、全員の単位取得と就職内定が得られた。学部3年次指導教員として学生対応し、M2指導教員としての連絡担当ならびに発表会のマネージメントに尽力した。
研究	0.30	学部学生と共に磁性材料とその応用に関する研究を行う．外部資金獲得のため科研費などに応募する．	0.30	学部学生と共に、磁気測定装置の作製、磁気探査装置の改良に取り組み、論文発表、成果報告をおこなった。現在特許1件出願の準備中。科研費にも応募できた。奨学寄附金の援助も得られた。
社会貢献	0.20	学会関係の各種委員会(電気学会電力用磁性材料の評価活用応用技術調査委員会，IEC-TC68国内委員会など)や県内の委員会活動に参画する．	0.20	電気学会調査専門委員会、IEC-TC68国内委員会、日本磁気学会編集委員、県内の委員会にも参画し、会議出席ならびに運営に協力できた。
管理運営	0.20	教授会，専攻会議，学科/コース会議をはじめ各種委員会(学部: 研究推進，情報，学科: 計算機管理など)に参加し，組織の管理運営に携わる．	0.20	各種会議に参加できた。特に計算機管理ではコースのPC関係のセキュリティーポリシーを新規に作成し関係コース会議ならびに委員会に上程した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	長堂　勤	所　属	工学部　工学科　電気システム工学コース	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	学部担当科目（制御工学、工業数学II、電気電子計測工学Ⅱ、卒業研究、セミナー）を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。また授業アンケートの結果に対応する。指導教員を担当する2年次の学生に対し、相談に対応する。	0.40	学部担当科目については，ほぼJABEEに準拠するような講義が行えたものと考える。特に工業数学IIにおいては小テストを毎回実施し，計算能力の向上を図った。また留学を希望する学生に対し、担当する科目について修学指導を行った。
研究	0.40	研究論文の採択を目指す。 国内外で研究発表を行う。今年度の目標として、査読付き論文1編以上、国際・国内学会発表1件以上とする。	0.40	研究業績として、レフリー付き学術論文（1件）、国内学会発表論文（1件）であり、ほぼ設定目標通りであると言える。
社会貢献	0.15	沖縄職業能力開発大学校の非常勤講師を担当し、職業訓練を担うことで地元に貢献する。またオープンキャンパスに積極的に取り組む。	0.15	前学期において沖縄職業能力開発大学校で講義（制御工学）を担当し、地域貢献を行った。またオープンキャンパスに参加し、地元高校生へ電気・電子・情報工学の有用性・重要性を説明した。
管理運営	0.05	電気系コース教育改善委員会、広報委員会、安全委員会、全学遺伝子組み換え生物等使用安全委員会などの委員会活動に積極的に参加する。	0.05	電気系コース広報委員を担当し、工学部広報等のパンフレットの作製作業を行った。また安全委員として毎月、研究室等の巡視を行い、安全・衛生面についてチェックを行った。その他委員会においても積極的に会議へ参加した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	半塲　滋	所　属	工学部　工学科　電気システム工学コース	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.50	(1)電気数学Ⅳ(昼間主コース)において、学生に合わせた講義資料を準備し、学生の理解度に注意しつつ講義を進める。不可の学生が2割未満となることを目標とする。(2)非線形制御特論(大学院)の講義資料を改訂し、講義内容の充実をはかる。(3)エンジニアリングデザイン講義(昼・夜間主)において、学生に合わせた講義資料を準備し、学生の理解度に注意しつつ講義を進める。(4)ディジタル信号処理(昼間主)において、学生に合わせた講義資料を準備し、学生の理解度に注意しつつ講義を進める。不可の学生が2割未満となることを目標とする。(5)卒研生および大学院生の研究指導では、学生の自主性を重視した指導をおこなう。	0.50	(1)工業数学Ⅳ・電気数学Ⅳにおいて、学生の理解度に注意しつつ講義を進めた。不可率は15.4%であった。(2)非線形制御特論の講義資料を改訂した(3)エンジニアリングデザイン講義において、学生に合わせた講義資料を準備し、学生の理解度に注意しつつ講義を進めた。(4)ディジタル信号処理の講義資料を新規に作成し学生の理解度に注意しつつ講義を進めた。不可率は6.5%であった。(5)卒研生および大学院生の研究指導では、学生の自主性を重視した指導をおこなった。すべての学生が卒業・修了し、進学ないし就職した。
研究	0.30	(1)制御理論に関する研究を進め、年度内に1本以上論文を投稿する。(2)科研費に基盤研究Cあるいは萌芽研究として応募する。(3)査読者として、投稿論文の査読をおこなう。	0.30	(1)制御理論に関する研究を進め、論文を1本投稿した。(2)論文7件の査読をおこなった(Automatica 1件、Asian Journal of Control 5件、国際会議1件）
社会貢献	0.10	(1)講義資料などを、著作権上問題がない限りにおいて、適宜ホームページにて公開する。 (2)計測自動制御学会九州支部事業幹事および顧問の業務をおこなう。特に、計測自動制御学会九州支部学術講演会に係る作業をおこなう。	0.10	(1)講義資料などをホームページにて公開した。 (2)計測自動制御学会九州支部事業幹事および顧問の業務をおこない、計測自動制御学会九州支部学術講演会に係る統括の業務をおこなった。
管理運営	0.10	工学部・高専教育研究推進委員会委員、交通指導委員会委員、実験検討委員会委員等の活動をおこなう。	0.10	工学部・高専教育研究推進委員会委員、交通指導委員会委員、実験検討委員会委員等の活動をおこなった。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	藤井　智史	所　属	工学部　工学科　電子情報通信コース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学部担当科目についてはJABEEの基準を満たす講義を行う。大学院担当科目は輪講形式で実施し学生の自主的学習を促すようにする。研究室4年次学生に対して、進路相談、推薦状作成等に対応し、大学院につながる研究指導を行う。大学院博士前期課程ならびに後期課程学生に対して、国際レベルの研究発出できるように指導を行う。	0.30	学部担当科目（電気電子計測工学Ⅰ、同Ⅱ、通信工学Ⅰ）についてJABEE基準を満たす講義を行った。大学院担当科目（信号処理システム特論）は輪講形式にて実施するとともに毎週課題を出して自主学習を促した。研究室4年次学生進路指導により就職希望者は全員早期に就職先が内定し、3名の大学院進学が決まった。博士後期課程学生の研究指導により海外トップジャーナルへ論文掲載された。
研究	0.45	研究代表者として獲得した科研費基盤(B)および中部電力原子力安全技術研究所公募研究を分担研究者とともに着実に進める。 共同研究継続1件（宮崎県水産試験場)新規1件(情報通信研究機構）について、相手先と連携し成果発出に努める。 国際著名論文誌への掲載ならびに国際学会での発表を行う。	0.45	研究代表者として新規獲得した科研費基盤(B)の研究は進展中である。中部電力原子力安全技術研究所公募研究は最終年として、1ヶ月の現地観測実験を行い成果取りまとめ中であり、次年実施の公開報告会では登壇報告を求められている。宮崎県水産試験場等の共同研究はネットワーク化を進め、県独自レーダ導入の先駆となり社会実装として成果を得た。情報通信研究機構との共同研究では卒業研究テーマ2件に関係し着実に成果を上げている。期中に新規に三菱電機との共同研究を立ち上げた。 地球物理学分野のトップジャーナルでの論文掲載、招待講演2件を行った。
社会貢献	0.10	学外の研究資金採択専門評価委員として適正に評価を実施する。 国際会議の実行委員長として沖縄での国際会議を開催する。九州大学応用力学研究所研究集会代表者として研究集会を開催する。 総務省から委託の地域情報化アドバイザー、電波適正利用推進員選出委員等の職務を遂行する。	0.10	学外の研究資金採択評価専門評価委員2件を受任しそれぞれ適正に評価した。国(総務省、国交省)からの受託事業調査委員会2件を受任し積極的に議論し事業実施に貢献した。国際会議(4th ORCA)の運営委員会委員長として会議を円滑に開催した。九州大学応用力学研究所研究集会代表として研究会を主催した。 地域情報化アドバイザーとして佐渡市での電波活用促進の講演をおこなった。電波適正利用推進員選出委員の委員長として適正員の選定にあたった。
管理運営	0.15	電気電子工学科長、電子情報通信コース長の職務を遂行する。特に、電気電子系教室会議を主宰し電気電子系2コースの効率的運用を図る。 工学部の学生指導主任の任務を担い、学生生活委員会委員に参加し、学生支援・指導専門委員会委員長の役割を全うする。	0.15	電気電子工学科長、電子情報通信コース長の職務を遂行し、電気電子系会議を主宰し電気電子系2コースでの円滑な業務遂行に務めた、 工学部の学生指導主任として全学の学生生活委員会に出席し学生指導の職務を遂行した。同委員会傘下の学生支援・指導専門員会委員長として委員会を開催し奨学金や授業料免除の選定などの全学学生支援の任に当たった。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	長田　康敬		所　属	工学部　工学科	職　名	教授
領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.30	(1) 学部の講義：情報関連の講義「電子計算機Ⅰ」,「電子計算機Ⅱ」,「情報数学」,「情報理論」を担当し，この分野の新しい技術を紹介していくことに努める. (2) 上記の学部の講義のうち,「電子計算機Ⅰ」と「情報理論」のテキストを執筆し，出版できるよう引き続き準備を進める.「情報数学入門」は共著で出版の準備中である.「情報理論」は森北出版と出版に向けての打ち合わせ中である. (3) 博士前期の講義である「ディペンダブルシステム特論」(「Advanced Dependable Systems」)の英文の資料を作成したので，さらに加筆して，講義の最初の所でこの分野の概論と基本的な技術の習得を目指す.		0.30	(1) 学部の講義の中でコース制移行のため本年度開講されなかった科目があった. 今後とも情報関連科目「電子計算機Ⅰ，Ⅱ」,「情報数学」，また名称が刷新される「情報と符号の理論」の新しい技術の基礎と応用を講義することに努める. (2)「情報と符号の理論」の教科書執筆が進み，森北出版と打ち合わせを続けてきた. H31年3月に最終原稿を提出する予定である. 他の科目の教科書も執筆続行中である. (3) 博士前期の講義である「ディペンダブルシステム特論」(「Advanced Dependable Systems」)の英文の資料を作成し，さらに加筆して充実させた. 書き込み形式にしたこの資料を講義の最初の所で用いた. 好評であった.	
研究	0.30	(1) 他学科および沖縄高専との共同研究を行なう予定. (2) 科研費以外の研究資金を確保できるよう各種助成金に応募する予定である. (3) 多値論理および機械学習とファジー論理を応用したデジタルシステムの開発，および実装を行なっていく. 特に非同期システムや耐故障システムを設計し評価する. 本年度は4月に論文投稿をしたので，引き続き，論文投稿を計画する. (4) 可変しきいゲート関連の論文を計画している. B型およびC型の3値論理と非同期システムの理論的側面を扱った論文投稿を行なう計画である. (5) 学会活動：Okinawa型ドローン. サスティナブルシステム協同研究会委員を務める. (6) 学会活動：多値論理研究会の委員を務める.		0.30	(1) 他学科および沖縄高専との共同研究を行ない，論文投稿をした結果，採録になった. 2019年2月に電気学会に掲載. (2) 科研費やその他の研究資金を確保できなかったが，さらに電気学会へ本年度2本目の論文の投稿を行なった. (3) 多値論理および機械学習とファジー論理を応用したデジタルシステムの開発，および実装を行なった. 特に非同期システムや耐故障システムを設計し評価した. 本年度は4月と11月に論文投稿をした. 引き続き，論文投稿を計画している. (4) 可変しきいゲート関連の論文を投稿した. B型およびC型の3値論理と非同期システムの理論的側面を扱った論文投稿を執筆中である. ″ (5) 学会活動：Okinawa型ドローン. サスティナブルシステム協同研究会委員を務めた. (6) 学会活動：多値論理研究会の委員を務めた.	
社会貢献	0.15	(1) センサー技術による環境関連設備の新しい製品の開発に着手し，地元のニーズに応える. (2) 蓄電装置とソーラーシステムを設計するプロジェクトに参加し，地域の特性に沿った物づくりを行なう予定である. (3) ハンディーキャッパ用音声関連の研究に着手する.		0.15	(1) センサー技術による環境関連設備の新しい製品の開発に着手し，地元のニーズに応えた（情報工学科と共同研究）. (2) 蓄電装置とソーラーシステムを設計するプロジェクトに参加し，地域の特性に沿った物づくりを行なった. ソーラーパネルを4枚設置（1kW） (3) ハンディーキャッパ用音声関連の研究に着手し，大学院生の研究テーマとした.	
管理運営	0.25	(1) 工学部の入試委員会委員および研究推進委員会委員として関連事項の役割を果たしていく予定である. (2) 学科の学部入学者委員会委員および教育改善委員顔委員として，役割を果たしていく予定である.		0.25	(1) 工学部の入試委員会委員および研究推進委員会委員として関連事項の役割を果した. (2) 学科の学部入学者委員会委員および教育改善委員顔委員として，役割を果たした.	
	0.00			0.00		
計	1.00			1.00		
※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				□　学外公表に同意しない。　□　学内外公表に同意しない。		

（別紙１）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	野口　隆	所　属	工学部工学科　電子情報通信コース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.00	大学院生には、学生が英語のプレゼンができるように国際会議に投稿し、修論も英語での発表で指導する。就職指導、進学指導を行う。国際交流、交流研究を通して、留学生も含め、国際交流（委員）関連で指導、支援する。今年度は学部3年生の指導教員として指導。	0.20	進路（就職）指導した(5名中3名進学)。修論指導はプレゼンを英語で指導した。卒論にも英語での発表を薦めた（1名）。大学院の講義（半導体工学特論）、学部の専門科目（電子回路III)で英語、日本語で効果的にプレゼンテーションができるよう指導した。国際会議に投稿し、4年生、M2を指導し、発表させた。
研究	0.00	国際会議でインパクトある研究成果を発表、JOURNALに投稿し、本（コース）学部での成果をアピールする。特許出願を行う。学会では、委員として積極的に研究会を運営する。（正規論文2件、出願1件、国際会議7件（うち1件招待予定）、国内会議5件。	0.35	国際会議で招待（於ECS、メキシコ）講演依頼を受け、発表した。英語論文は2件投稿し掲載された（現在、2件投稿中）。特許1件出願前、1件公開。国際会議は全7件を発表（IMID, IDW, ECS, ITC(予定）。
社会貢献	0.00	国際会議（IMID, IDW他)、国内では応用物理学会、電子情報学会SDM委員会の委員として、学会運営で貢献する。今年度は、国際会議（ITC:TFT国際会議）の委員長として準備し、世界から沖縄に研究者を招き開催する。	0.25	国際会議、IMID、IDW（ディスプレイ関連会議）で委員として貢献。応用物理学会では、薄膜半導体のセッションで”シンポジウム”を企画開催して盛り上げた。TFTの国際会議として15回目となるITC2019国際会議では実行委員長として準備、開催前（那覇自治会館2月28日～3月2日）。工学部社会貢献賞受賞。
管理運営	0.00	安全委員として学科の安全を見直し、具体的な指導、運営を図る、国際交流委員として具体的に活動し、貢献する。（締結大学と交流会を開き、短期留学生を実際に受け入れ、できれば日本人学生を海外へ短期で送る。）	0.20	毎月点検を行い、安全委員会に出席し、提案した。（歩きスマホ注意など）。国際交流会を2回、韓国、日本で開催した。湖西大(韓)、厦門理工学院(中)、MIT(米)を訪問し、今後の学生インターンシップの可能性を打診した。留学生3名（半年間）を受け入れ、4月受け入れ（湖西大学3名予定（岡田研へ）。
	0.00		0.00	
計	0.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	山里　将朗	所　属	工学部工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学部担当科目（電子物性工学Ⅰ，量子力学Ⅰ，電子デバイス工学Ⅰ）を担当し，学習教育到達目標を満たす講義を行う．大学院では，電子物性工学特論を担当し，英文テキストを用いて，輪講形式で行う事で，学生の英語能力並びに自主学習能力促進をはかる．また，研究室配属学生に対して就職，進学指導を行う．	0.30	学部講義において担当科目の講義を行った．講義資料を作成，配付し，学生の理解を深めるように努めた．また，大学院では英語テキストによる講義を行ない，研究室学生の進路指導を行った．
研究	0.35	国内外における学会発表や論文の採択及び外部資金獲得を目指す．実社会に応用できる技術の研究開発に努める．	0.25	沖縄未来半導体研究会で，内閣府，沖縄高専，関連企業とともに沖縄における産業発展に関する活動を行った．９月にはOISTにおいて，産総研，物質・材料研究機構，OISTロバート・バックマン副学長が参加する研究会をもった．
社会貢献	0.10	高校訪問やオープンキャンパス等を通して，電気電子工学の社会における役割を紹介する．社会連携委員として，工学部後援会活動に協力する．	0.30	オープンキャンパスで当学科の内容を紹介した．工学部社会連携委員，工学部後援会事務局として後援会業務を行い，キャリア形成支援セミナー，就職説明会を開催した．
管理運営	0.25	各委員会活動を通して，学科及び学部運営に関わる．	0.15	大学院入学者選抜委員会委員，工学部社会連携委員，大学院学務委員会等の活動を通して，学科及び学部運営に携わった．
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	景山　弘	所　属	工学部電子情報通信コース	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	昨年度と同様に、1年次対象の工業数学Ｉおよび電磁気学Ｉ、ならびに、3年次対象の電子デバイス材料工学を担当する予定である。昨年度と同様に、毎回の講義において小テストを行うことにより、学生の理解度を把握するとともに、学生には前回までの内容を理解したうえで次の講義を受講させるように配慮する。また、小テスト・演習を毎週返却する際に模範解答を示すことで、学生がその場で自己評価できるように配慮する。	0.40	1年次対象の工業数学Ｉおよび電磁気学Ｉ、ならびに、3年次対象の電子デバイス材料工学を担当した。昨年度と同様に、毎回の講義において小テストを行うことにより、学生の理解度を把握するとともに、学生には前回までの内容を理解したうえで次の講義を受講させるように配慮した。また、小テスト・演習を毎週返却する際に模範解答を示すことで、学生がその場で自己評価できるように配慮した。また、学術協定校［湖西大学（韓国）］に出張し、将来の学生交流（留学の受け入れ可能性）について協議した。
研究	0.40	昨年と同様に、有機薄膜太陽電池の高性能化に関する研究を行う。研究成果は、論文あるいは学会発表の形で公表する。なお、少なくとも、1件以上の論文投稿あるいは学会発表を行うことを目標とする。また、科研費（基盤研究C）への申請を行う。	0.40	有機薄膜太陽電池の高性能化に関する研究を行った。研究成果を査読付き学術論文（1報）にて報告するとともに、国際フォーラム（韓国）および学術交流会（琉大）において発表した。さらに、英文著書の一節（共著）の執筆を担当した。また、科研費（基盤研究C）への申請を行った。
社会貢献	0.10	電子情報通信学会　有機エレクトロニクス研究専門委員会委員を務める。	0.10	電子情報通信学会　有機エレクトロニクス研究専門委員会委員を務めた(6/7まで)。
管理運営	0.10	予算委員会（学科・学部）、教育改善委員会、電気数学関係科目検討委員会、電磁気学関係科目検討委員会、電子物性科目検討委員会の各委員を務め、学科・学部運営に参画する。	0.10	予算委員会（学科・学部）、教育改善委員会、電気数学関係科目検討委員会、電磁気学関係科目検討委員会、電子物性科目検討委員会の各委員を務め、学科・学部運営に参画した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐　学外公表に同意しない。　　☐　学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	金城　光永	所　属	工学部	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学部担当科目として昼間主コース必修科目であるエンジニアデザイン基礎，電子回路基礎，同選択科目の電子回路II，量子力学II，夜間主コースの電子回路IIを担当し，学習教育目標の基準を満たす講義を行う．また，大学院担当科目として量子計算機工学特論を担当し，量子計算機のソフトウェアとハードウェアに関する講義を日本語及び英語にて行う．さらに学部昼間主コース4年次の指導教員として，年次別懇談会，オフィスアワーなどを利用し，学生の大学生活および履修指導を行う．また，研究室配属の学部生および大学院生に対し専門教育および進路指導を行う．	0.35	学部担当科目として新コース1年次学生向け科目のエンジニアリングデザイン基礎，電子回路基礎，昼間主コースにおける電子回路I，同II，同サポートルーム，量子力学II，夜間主コースの電子回路I，同IIを担当し，学習教育目標およびURGCCの基準を満たす講義を行った．また，大学院担当科目として量子計算機工学特論を担当し，量子計算機に関する講義を日本語及び英語にて行った．さらに学部昼間主コース4年次の指導教員として，年次別懇談会，オフィスアワーなどを利用し，学生の大学生活および履修指導を行った．また，研究室配属の学部生および大学院生に対し進路・就職情報提供などの進路指導を行った．
研究	0.30	大学院生および学部生と共に，他大学とも連携して量子計算機の実現に向けたソフトウェア面およびハードウェア面の基礎的研究開発に努める．また，その成果をもとに国内外学会発表および学術論文など1件以上の投稿を目指す．	0.25	大学院生および学部生と共に，他大学とも連携して量子計算機の実現に向けたソフトウェア面およびハードウェア面の基礎的研究開発に努めた．また，FPGAや集積回路設計による組合せ最適化問題を解くためのハードウェア設計に関する基礎的研究開発に努めた．その成果をもとに国内および国際学会にてそれぞれ1件ずつ発表し，学術論文1件が採択された．
社会貢献	0.20	当該大学の「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」と連携・協力し，電気電子工学分野の普及目的で，地域の小学生高学年に対して同分野への興味を持ってもらうため，公開講座として簡単な電子工作教室を1件企画運営する．	0.20	大学COC事業と連携・協力し，地域の小学生高学年に対する電気電子工学分野への興味を持ってもらう目的で，公開講座として簡単な電子工作教室を1件（工学部2号館，7/29），企画運営した．その際，小学生と大学生がマンツーマンで触れ合える環境を用意し，小学生がより身近に工学を感じられるよう工夫した．また，課題目標達成が明確となるように各参加者の写真入りの課題クリア報告書を作成し，参加者のものづくりへの努力を賞賛した．
管理運営	0.20	学部情報委員および学部施設・環境委員として委員会活動に積極的に参加し，各種情報化や施設・環境に関する方策や対策に携わる．また，学科計算機委員などその他の委員会活動についても積極的に参加し，それらの管理運営の維持・改善に努める．	0.20	学部情報委員会委員として委員会活動に積極的に参加し，各種情報化に関する方策や対策に携わった．また，学科計算機委員として委員会活動に積極的に参加し，セキュリティインシデント対応マニュアルなどの作成に携わった．
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐　学外公表に同意しない。　　☐　学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前	齋藤　将人		所　属	工学部　工学科　電子情報通信コース	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	担当授業科目において学科教育・研究プログラムに沿った達成目標を設定する．正当な達成度評価をするよう，試験問題を工夫する．特に，回路理論IIIでは，例年成績の悪いひずみ波交流に関して講義と演習の内容を改善し，TAを活用することにより，2年次学生の単位取得率を70%程度（前年度65%）まで改善させる．インターンシップと現業実習の受付窓口として，情報提供や取りまとめ等を通して就職支援のサポートをする．指導学生からの進路相談に対応し，必要に応じてヒアリングや情報提供などを行う．2名の留学生に対して，彼らの文化に配慮し，学習・研究に集中できる研究室の環境作りを行う．	0.50	担当授業科目として，前期電磁波工学，後期回路理論IIIを開講した．回路理論IIIでは，予習・復習の効果と出欠確認のため小テストを導入した．ひずみ波交流について本質的な理解に重きを置いた講義をしたが，演習面で自主性に重きを置きすぎたためか，単位取得率が46%と低調に終わった．2回目の中間・期末試験を行い単位取得率を増加させる予定である．大学院向けに後期無線通信システム特論を日本人学生1名，留学生3名に対して開講した．講義は英語で行った．エンジニアリングデザイン演習を1組受け持った．Frontier of Engineering（英語）の講義を1回開講した．3年次指導教員の連絡係として，3年次編入学生の単位認定作業を行った．また，インターンシップ関連の担当として，告知・掲示や現業実習の単位認定作業を行った．仮配属学生の配属作業をできるだけ自動化するようファイルの修正を行い，配属作業の効率化を図った．開催された回路理論科目検討委員会に出席し報告を行った．研究室の卒研生4名，修了生5名の進路指導を行い，推薦書を作成するなど支援を行った．ABEイニシアティブプログラムでの留学生2名のうち，1名は修了が危うかったものの，チュータを付けるなどサポートを行い論文審査に至らせることができた．
研究	0.25	M2学生1人につき1編（全体で5編）学会誌に投稿することを目標として研究指導する．研究室全体で，国際会議・国内会議にそれぞれ2件，5件以上投稿・発表することを目標とする．電子情報通信学会（信学会）ワイドバンドシステム(WBS)研究専門委員，同衛星通信研究専門委員として，都合がつく場合，積極的に専門委員会に参加し，研究会の運営に貢献する．信学会和文論文誌A，英文論文誌Aの編集委員として，両誌の編集活動において貢献する．また，信学会英文論誌AのWBS小特集の編集委員として，同特集の編集活動に貢献し，都合が付く場合，編集委員会に参加する．信学会，IEEE等の論文誌，国際会議の査読依頼があれば積極的に引き受け，これら学会活動に貢献する．科研費が採択されていなければ，科研費に応募する．民間の研究助成に2箇所以上申請する．本年度採択された名古屋大学未来材料・システム研究所共同利用・共同研究を利用して名古屋大学との共同研究を進める．	0.20	電子情報通信学会英文論文誌Bに論文が1編採録された．国際会議で2件（うち1件は基調講演），国内会議で3件の口頭発表を行った．WBS研究専門委員会に2回，SAT専門委員会・連絡会に2回参加して運営に貢献した．信学会和・英論文誌Aの編集委員会に2回参加し，8件の英文論文の編集作業に携わり，和文論文のメール審議で意見を出すなど貢献した．基礎・境界分野の論文賞選定作業に参加した．また，信学会英文論誌AのWBS小特集の編集委員として，同特集の編集活動に貢献した．科研費に2件（基盤B分担者，基盤C代表者）申請した．名古屋大学未来材料・システム研究所共同利用・共同研究に採択され，来年度の継続申請を行った．学生1名を名古屋大学での発表会に派遣して発表させた．交流協定締結先のMMMUTで開催された国際会議UPCON2018に参加し，基調講演を行うなど研究活動の広報を行った．
社会貢献	0.10	都合が付く場合には積極的に，信学会WBS研究専門委員会，同衛星通信研究専門委員会，信学会和文論文誌A，英文論文誌Aの編集委員会，信学会英文論誌AのWBS小特集の編集委員会に参加する．海外の大学の博士課程審査員を行う．インドMMMUTやIITカンプール校との交流協定に関して，インターンシップの受け入れや国際会議UPCONの運営に携わるなど国際交流に積極的に貢献する．	0.10	信学会WBS研究専門委員会，同衛星通信研究専門委員会，信学会和文論文誌A，英文論文誌Aの編集委員会，信学会英文論誌AのWBS小特集の編集委員会にそれぞれ参加した．オーストラリアQUT(Queensland University of Technology)の博士課程審査員を行った．インドMMMUTからのインターン1名を1ヶ月間受け入れた．国際会議UPCONに参加し，基調講演を行った．2月に那覇で開催された国際会議ICAIIC2019の現地委員として会議成功に貢献した．
管理運営	0.25	予算配分委員会の委員として，委員会に参加し意見を述べるなど貢献する．電気系2コースの教育委員会委員として，委員会に出席し，学科の教育について貢献する．代議会委員として，代議会に参加し意見を述べるなど貢献する．電気通信主任技術者担当として学部学務係と連携し，科目免除等の事務を処理する．学科会議，専攻会議，教授会，研究科委員会に可能な限り参加し，積極的に意見を述べるなど学科，研究科の改善のために貢献する．入試問題作成など，割り当てられた入試関連業務を確実に遂行する．	0.20	予算配分委員会の委員として，委員会に参加した．電気系2コースの教育委員会委員として，都合の付く委員会には全て出席した．代議会委員として，代議会に参加し，複数回意見を述べた．電気通信主任技術者担当を勤め，卒業生への連絡方法について検討した．学科会議，専攻会議，教授会，研究科委員会に可能な限り参加した．大学院入試の入試問題作成（1期，2期）を担当した．学生部が実施している進路調査票の英文がひどかったので，修正案を提示し修正した．成績入力期限に関する矛盾について対応を明確にするよう指摘を行った．
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	岡田　竜弥	所　属	工学部　工学科　電子情報通信コース	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	学生実験において、その場で考えながら進められるよう工夫するとともに、結果、考察などきちんとレポートにまとめられるよう指導する。また1年次指導教員として、年次別懇談会などを通じて、卒業後の進路も見据えて計画的に履修を進めるよう指導する。	0.30	学生実験においては、実験課題毎に結果の説明を求め、どのような結果が得られたのか説明できるよう訓練を促した。また特に基礎実験では、提出されたレポートに対してコメントした上で一旦返却し、レポートの作成能力を上げられるよう指導した。1年次の指導教員としては、年次別懇談会や工学基礎演習を通じて、キャリア教育センターなども活用して将来について考えるよう指導した。
研究	0.35	学会で研究成果を発表するとともに、2本以上を目標に論文にまとめ投稿する。また科研費やJSTなどの外部資金獲得に向けて、積極的に応募する。	0.30	論文が1件掲載され、1件共著で投稿した。筆頭著者として1件の国際会議、1件の国内発表で発表し、共著者として6件の国内会議、7件の国際会議に研究成果を発表した。また2件の外部資金に採択された。
社会貢献	0.10	他の業務に支障のない範囲で、研究会への参画など積極的に行ない、研究成果を発信する。	0.20	国際会議の副プログラム委員長を引き受け、また現地実行委員として学会の円滑な開催に向けて学会事務局など運営を行なった。
管理運営	0.20	1年次指導教員の連絡係として、また学科や学部の各委員会の委員として責任をもって業務に取り組む。	0.20	1年次指導教員の連絡係として、工学基礎演習の調整、年次別懇談会の計画などを行なった。また実験検討委員会などの委員として、各委員会の職務を務めた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	曽根川　富博	所　属	工学部工学科電子情報通信コース	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	前期の4年電子システム工学実験，3年電気電子システム工学実験I，後期の3年電気電子システム工学実験IIでの、受講生の理解度を深めPCを利用した報告書作成方法の理解がえられるよう指導を行う。また，実験ノートの重要性を学生に理解させ，漏れなく実験結果を記録させる習慣をつけさせる。研究室配属学生について，進路に関する指導を密に行う。	0.40	電子・システム工学実験および電気電子工学実験I，IIでの指導において，昨年度から引き続いて行っている学生から提出されたレポートについて，PCを使用した図表の作製方法の説明，添削を行うことで，翌週のレポートのグラフや図表の完成度を上げることができた。卒業研究を担当している学生については極的に就職活動をおこなわせ，報告会，ゼミ等の日程調整を積極的に行ったが，全員の進路決定にはならなかった。
研究	0.35	昨年度卒業研究で指導した，熱酸化による多孔質シリコン低誘電率材料の作製について，論文としてまとめ，投稿を行う。また，陽極化成による溶液中での酸化法について現在までの成果を応物にて発表を行い，論文としてまとめる準備を行う。	0.35	論文投稿に向け準備を進めてきたが，FE-SEMの故障，それに伴う研究基盤センターの卓上SEMへの評価方法の変更の対応に手間取り投稿できなかった。溶液中酸化は，昨年度の研究を発展させた実験を行ったが，仮説と逆の結果となり，その原因を調査している。
社会貢献	0.05	工学部後援会総会等、後援会主催行事に積極的に参加し貢献する	0.05	今年度工学部後援会の総会については，日程の都合がつかずに参加できなかった。しかし，卒業研究生や，仮配属性に後援会主催の就職説明会等への参加を積極的に勧めるなどの形で貢献ができた。
管理運営	0.20	工学部教授会および，所属コースの会議に参加すると共に，工学部およびコースの担当している各委員会に積極的に参加し，業務に支障が生じないようにする。特に電気電子系教育委員会では，来年度の修学手引書の編集を遅延無く完成させる。	0.20	各種会議には，学生指導等で出席できない時を除き参加できた。委員会活動のうち，修学手引書については現在準備の最中であり，引き続き期限内の完成を目指して作業を行う。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	長名　保範	所　属	工学部電子情報通信コース	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	後期から新コースの学生実験が開始になるので、そのための準備を重点的に進めていく。年次指導教員が4年次の担当であるので、進路指導もしっかり行っていきたい。	0.30	後期から開講された新コースにおける学生実験のとりまとめを行い、無事に終えることができた。また、例年後学期に開講している大学院の講義が日本人学生だけでも14名と盛況であったため、講義の内容を大幅に作り直して実施し、これもうまくいったと考えている。進路指導も必要に応じて実施した。
研究	0.30	獲得している科研費が最終年度なので、成果をまとめて論文誌への投稿を目指すとともに、来年度の研究費獲得へむけての取り組みも行う。	0.25	研究室の学生と共に研究を推進し、一部は成果をまとめて投稿するところまでたどり着いたものの、下記の国際会議の準備などで時間を取られたため期限までにreviseをすることが不可能となり取り下げに至ったことは残念だった。一方では別の国際会議での招待講演で発表する機会もいただけたので、今後につなげていきたい。科研費にも新しいテーマで申請を出した。
社会貢献	0.20	学会の各種委員や、国際会議の運営委員としての活動を行う予定。12月に那覇で国際会議の開催を予定している。	0.25	12月に那覇で開催された FPT'18 (International Conference on Field-Programmable Technology) の Vice co-chair を務めた。17回目となるこの会議史上最大規模の参加者数であり、大成功であった。また、この会議に関連して過去数年間にわたって実施したFPGAデザインコンテストの実績が評価され、2018年度の電子情報通信学会教育功労賞を受賞した。
管理運営	0.20	工学部や学科・コースの各種委員会を通じて大学の管理運営業務を行う。	0.20	工学部や学科・コースの各種委員会を通じて大学の管理運営業務を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	安藤 徹哉	所　属	工学部　社会基盤デザインコース	職　名	教授	

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	・最新の知見を取り入れた授業を心がけ、学生たちの興味を引きつける。　・予定通り、博士後期課程学生1名を修了させる。	0.30	・新カリキュラムへの対応を含め、JABEEに対応した授業を計画通りに実施した。また予定通り、1名の博士後期課程学生(PEACEプログラム)を修了させた。
研究	0.40	・査読付き論文を複数投稿する。 ・外部資金獲得に努める。	0.40	・計画通り、二編の査読付き論文(建築学会・ICAH)を投稿し、掲載された。また外部資金として、大林研究助成を獲得した。
社会貢献	0.10	・学外の各種委員会に積極的に参加する。	0.10	・学外の各種委員会活動を行なった。
管理運営	0.20	・学内の各種委員会に積極的に参加する。	0.20	・学内の各種委員会活動を行なった。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。	□　学外公表に同意しない。　□　学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２９年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	藍檀　オメル	所　属	工学部　社会基盤デザインコース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	・社会基盤デザインコースが目標としている教育を目標とする. ・社会基盤デザインコースの定める授業改善マニュアルに基づく授業改善を行う. ・学生よりの意見などを積極的に考慮し、魅力のある授業を目指す.	0.35	・社会基盤デザインコースが目標としている教育を目標とした. ・社会基盤デザインコースの定める授業改善マニュアルに基づく授業改善を行った. ・学生よりの意見などを積極的に考慮し、魅力のある授業を目指した.
研究	0.20	・査読付き論文の投稿や招待講演、学会・シンポジウムなどでの研究発表を行う. ・所属部局以外との共同研究・計測器の開発などを行う. ・科研費以外の外部資金の獲得を目指す（寄附金，委託研究など）.	0.20	・査読付き論文の投稿や招待講演、学会・シンポジウムなどでの研究発表を行った. ・所属部局以外との共同研究・計測器の開発などを行った. ・科研費以外の外部資金の獲得を目指した（寄附金，委託研究など）.
社会貢献	0.25	・学協会の委員会活動を積極的に行う. ・学協会以外の学外の審議会，委員会等活動を積極的に行う. ・2019Rock Dynamics Summit in Okinawa国際学術会議の企画・運営や特別講演などを行う. ・国内外の学術論文集・ジャーナルなどの編集員を務める.	0.25	・学協会の委員会活動を積極的に行った. ・学協会以外の学外の審議会，委員会等活動を積極的に行った. ・2019Rock Dynamics Summit in Okinawa国際学術会議の準備し5月に開催することや特別講演などを行った. ・国内外の学術論文集・ジャーナルなどの編集員を務めた.
管理運営	0.20	・各種委員会において積極的に発言し、その職務を務める ・島嶼防災研究センターのセンター長を務める ・国際交流委員会委員などを務める.	0.20	・各種委員会において積極的に発言し、その職務を務めた ・島嶼防災研究センターのセンター長を務めた ・国際交流委員会委員などを務めた.
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐　学外公表に同意しない。　　☐　学内公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	有住　康則	所　属	工学部　工学科　社会基盤デザインコース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学部科目:「構造力学Ⅱ」、「基礎数学Ⅰ」，［橋設計論」及び「卒業研究」等を担当し、JABEEの基準に基づく講義を行う。講義では大学院前期学生をTAとして採用し、教育補助に活用する。各科目について授業改善資料Aを作成し、JABEE委員会で検討し，授業改善に努める。FD活動に積極的に参加する。大学院の講義を担当し，理工学研究科学生の研究指導を行う。4年次指導教員として、学生の修学指導，及び他学生の進学指導、就職支援及び求人希望会社の対応等に積極的に取り組む。	0.30	学部科目:「構造力学I及び演習」、［橋設計論」，「線形代数学A」、「土木技術者倫理」及び「卒業研究」等を担当し、JABEEの基準に基づき講義を行った。また。共通科目「災害と安全」及び「大学で何を学ぶか」を一部担当した。なお、演習等科目では大学院前期学生をTAとして採用し、教育補助に活用した。大学院では、「橋梁工学特論」を担当した。また、学部4年次指導教員として、学生の進学指導、就職支援及び求人希望会社の対応等に積極的に取り組んだ。
研究	0.25	科学研究補助金基盤研究(C)「鉛直・水平補剛材に重度の腐食損傷を受けた鋼桁腹板のせん断耐荷力評価と機能回復技術」を中心に研究開発を進め、その成果は土木学会論文集，鋼構造工学論文集等に投稿する。また、内閣府・JST・戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）に「亜熱帯島嶼に適した橋梁維持管理技術の実装と診断ドクターの育成」の研究活動を行う。学会活動では土木学会「鋼構造委員会」に委員としてに参加し活動する。	0.25	科学研究補助金基盤研究(C)「鉛直・水平補剛材に重度の腐食損傷を受けた鋼桁腹板のせん断耐荷力評価と機能回復技術」を中心に研究開発を進めた。また、内閣府・JST・戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）（H30、1500万円/年)について、開発された技術の沖縄における実装及び維持管理技術者の育成活動を行った。国内外の学術論文集（JSCE, ASCE)に2編（共著）採択された。土木学会「鋼構造委員会」に委員として参加した。
社会貢献	0.05	国土交通省「社会資本整備審議会専門委員」，沖縄総合事務局「景観委員会」，「総合評価審査委員会」、那覇市「都市計画審議会」、「那覇市上下水道事業審議会」等に委員（会長を含む）として参加し、専門的立場で意見を述べ社会に貢献する。	0.05	国土交通省「社会資本整備審議会道路分科会沖縄地方小委員」，那覇市「那覇市都市計画審議会」及び那覇市「那覇市入札監視委員会」に委員長（会長）として、また，沖縄総合事務局「総合評価審査委員会」、「景観委員会」等に委員等として参加し、専門的立場で意見を述べ社会貢献活動を行った。
管理運営	0.40	工学部長として、教授会、代議会を主幹し，構成員の意見を反映し、公正な学部運営に努める。特に，学部の教育組織改革を推進し、大学院の改組に取り組む。全学の企画経営戦略会議、教育研究評議会に出席し．学部の意見を述べ、関連資料については速やかに構成員に公表する。	0.40	工学部長として、教授会、代議会、前・後期委員会を主幹し，構成員の意見を反映し、公正な学部運営に努めた。特に，改組により新設された1学科7コース制教育システムへの移行を推進し、更に、大学院改組についても取り組んだ。また、教員ポスト戦略的再配分（部局等改革推進枠）1名を昨年度に引き続き獲得した。一方、全学の企画経営戦略会議、教育研究評議会、全学人事委員会に出席し、学部の意見を述べ、会議の内容については速やかに構成員に公表した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐　学外公表に同意しない。　　☐　学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	松原　仁	所　属	工学部　工学科　社会基盤デザインコース	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	最新の研究成果を積極的に取り入れた講義を実施することで，学問の多様性や奥深さを認識・習得させる。特に，土質力学やシビルエンジニアリングデザインに関しては，液状化対策や地すべり対策等の最新の防災研究に関する成果を取り入れた教育を実践する。	0.40	学部の講義「CED」では，過去に沖縄で発生した自然災害に関して，グループディスカッションを主としたアクティブラーニングを実施することができた。また，地盤の風化・生成を中心とした最新の研究事例を取り入れた講義やセミナーを実施した。結果として，2名の大学院の論文が著名な国際ジャーナルに採択され，3名の大学院生が国内の学術会議で発表できた。また，担当した学生（最終学年）の進路は，大学院進学（1名），県内外民間企業（8名），官公庁（5名）であった。
研究	0.40	昨年度から継続中の学内研究プロジェクト研究や企業からの研究助成金をベースにして，琉球石灰岩や島尻層群泥岩の風化・鉱化研究を進める。同時に，国内外の研究組織との研究交流を展開する。また，科研費等の外部資金獲得へ向けて積極的に取り組む。	0.40	企業との共同研究および学内戦略的プロジェクト研究を，工学部，理学部，農学部，教育学部，熱生研，島嶼防災研の6部局横断研究を通じて進めることができた（論文（国際誌）：3件，口頭発表：3件，特許取得：1件）。また，北海道大学，東京大学の研究者らと共同で科研費に応募した。
社会貢献	0.10	県内外の大学・企業との連携を密にし，地域社会の発展と人材送出に資する。	0.10	古紙繊維を利用した液状化抑制技術に関して，県外企業との共同研究を進め，共同で特許を取得するに至った（特許第6420929）。また，担当した全ての学生（最終学年，大学院生を含む）を社会へ送り出すことができた。
管理運営	0.10	研究推進委員会委員の一人とし，学際的かつ高度な研究活動の推進に資する。また，交通指導委員会委員の一人として，学部の交通安全向上に向けた活動を実施する。	0.10	工学部研究推進委員として，科研費申請・採択率の向上やトップジャーナルへの投稿・採択に関する活動を実施した他，交通指導委員として，学内で発生した交通事故等の対応（コース内への周知等）を行った。また，土木学会や地盤工学会，岩の力学連合会等の各種研究委員会に参画し，活動した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	富山　潤	所　属	工学部　工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	・コースの目標に照らした教育目標の設定 ・コースの定める授業改善マニュアルに基づく授業改善を行う. ・学生からの意見を積極的に聴衆する. ・教育補助者の有効活用，その資質の向上，FDへの参加 ・大学院の講義において機械学会の認定CAE技能講習会の認定を受ける ・オフィスアワーによる学生支援，卒論生，博士学生の指導を十分行う.	0.30	・コースの目標に照らした教育目標に応じた講義や授業改善マニュアルに従った改善を行った. ・授業評価アンケート等で学生からの意見を積極的に聴取した. ・TAの利用，FDへの積極的な参加を行った. ・大学院の講義において機械学会の認定CAE技能講習会の認定を受け，講義を実施した. ・卒論，修士，博士の学生および3年次研究室仮配属の学生の指導を十分行った.
研究	0.30	・査読付き論文の投稿，学会での研究発表を行う. ・科研：基盤研究（C）の取得を目指す．基盤研究(B)(分担）2件に取組む. ・所属部局以外や学外組織との共同研究を行う. ・科研費以外の外部資金の獲得を目指す（寄附金，国土交通省研究助成など）.	0.30	・本コースが定めるAA論文1編に投稿中．A論文4編，査読付き報告2編，解説2編を執筆した. ・科研：基盤研究(B)分担2件に取り組んだ．また，基盤研究（B)に応募した．国総研プロジェクト分担1件に取り組んだ．その他，外部資金として，受託研究1件，寄附金3件を受けた. ・共同研究（西松建設，ヤマウ，大林組，R＆A，琉球セメントなど）を行っている. ・SIP(戦略的イノベーション創造プログラム）の地域実装チームとして積極的に活動し，地域実装に成功した. ・琉大と港湾空港技術研究所との研究協定の橋渡しおよび，活動を行っている.
社会貢献	0.20	・学協会の委員会活動を積極的に行う. ・学協会以外の学外の審議会，委員会等活動を積極的に行う.	0.20	・土木学会（5委員会），コンクリート工学会（2委員会）で活動した. ・沖縄県（2委員会），沖縄総合事務局（2委員会），うるま市（2委員会） ・民間として，生コン協会，アスファルト関係の委員会など ・講演会講師として，5件の話題提供を行った. ・5市町村の橋梁（1件はトンネル）長寿命化策定に学識経験者として参加
管理運営	0.20	・工学部社会連携委員・大学院改組WGを務める. ・土木コース教育プログラム実施WGを務める.	0.20	・工学部社会連携委員・大学院改組WGを務めた. ・土木コース教育プログラム実施WGを務めた.
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐　学外公表に同意しない。　　☐　学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	下里　哲弘	所　属	工学部　工学科　社会基盤デザインコース	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	・専門必修科目、専門選択必修科目、共通教育科目を担当し、JABEEおよびURGCC方針に準じて、教育水準を満たす授業を行う。 ・授業評価アンケート、授業改善報告書を活用した授業を行う。 ・大学院進学，民間就職，公務員希望学生の支援と指導を行う。	0.30	・専門必修科目・選択必修科目、共通教育科目を担当し、JABEEおよびURGCC方針に準じて、教育水準を満たす授業を行った。 ・授業評価アンケート、授業改善報告書を活用した授業を行った。 ・大学院2人，民間就職4人，公務員3人の進学決定を指導した。 ・博士後期学生4人の指導を指導し、その内、1名の学位認定を行った。
研究	0.40	・獲得した科研費Bに基づき、社会貢献技術の研究を行う。 ・土木学会、日本鋼構造協会等への査読論文投稿を行う。 ・県内外等で研究成果の発表を行う。 ・地域に貢献する研究活動（調査、講演等）を積極的に行う。	0.40	・獲得した科研費Bに基づき、社会貢献技術の研究を行った。 ・土木学会3件、日本鋼構造協会等への査読論文投稿4件を行った。 ・県内外等で研究成果の発表を行った。 ・地域に貢献する研究活動（調査、講演等）を積極的に行った。
社会貢献	0.15	・社会貢献として土木学会、学協会等の活動へ積極的に参画する。 ・社会および地域貢献として沖縄総合事務局、沖縄県、市町村などの委員会へ積極的に参画する。	0.15	・土木学会、鋼構造協会、腐食防食協会等の活動へ積極的に参画した。 ・地域社会貢献として沖縄総合事務局、沖縄県などの委員会へ参画した。 ・民間からの技術相談を多数行った。
管理運営	0.15	・工学部入試委員、将来計画委員の活動を行う。 ・工学部教授会、学科会議、博士後期および前期委員会等の諸運営活動を行う。	0.15	・工学部入試WG委員、大学院改組WGの活動を行った。 ・大学院改革WG委員としての活動を行った。 ・工学部教授会、コース会議、博士後期・前期委員会等の活動を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	入部 綱清	所　属	工学部　工学科　社会基盤デザインコース	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	JABEEに沿った教育によって、学生から評価の高い授業を行う。	0.30	JABEEに沿った教育によって、授業を行った。
研究	0.40	環境・防災をテーマに数値計算を中心とした応用研究を行う。	0.40	環境・防災をテーマに数値計算を中心とした応用研究を行った。
社会貢献	0.10	環境・防災研究を通じて社会貢献に努める。	0.10	環境・防災研究を通じて社会貢献に努めた。
管理運営	0.10	安全衛生委員会の委員として、委員会の運営に努める。	0.10	安全衛生委員会の委員として、委員会の運営に努めた。
	0.10	学生の進路相談や就職のサポートを行う。	0.10	学生の進路相談や就職のサポートを行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

□　学外公表に同意しない。　　□　学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	小倉　暢之	所　属	工学部　工学科　建築学コース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学部及び大学院における建築計画学関連諸科目を担当し、学習意欲の向上を図る。演習では積極的にTAを活用し、きめ細かな指導体制を形成し、学生の意見聴取及び学習相談を行う。研究室の指導教員として進路に関する相談指導を行う。また、国際交流協定締結校との教育交流を推進し、交換留学生の受入・派遣を推進する。	0.30	学部及び大学院における建築計画学関連諸科目を担当した。また、留学生も採用して演習科目で英語によるコミュニケーションの機会を提供する等、積極的にTAを活用し、きめ細かな指導体制を形成した。研究室学生院生の指導教員として進路に関する相談指導を行いほぼ全員希望進路に進む事ができたが、1名卒研未修となった。国際交流協定締結校との教育交流推進では、タイのキングモンクット工科大学ラカバン校と短期交換留学生の派遣と受け入れ、及びダブルディグリープログラム派遣大学院生が両校の修士論文審査に合格した。また、研究室から課程博士1名、論文博士1名を輩出した。
研究	0.35	科研費（海外B）及び、科研費（C）の研究代表者として研究組織の統括と研究に取り組み、共同研究者並びに大学院生等と共に研究した成果を国内外の論文に投稿する。また、国際交流協定締結校との研究交流を推進する。	0.35	科研費（海外B）「東南アジア都市低所得者層のための住民目線に立つ身の丈住宅供給」及び、科研費（C）「復帰前沖縄近代建築における地域完結的展開の特質」の研究代表者として研究組織の統括と研究に取り組み、共同研究者並びに大学院生等と共に研究した成果を国内外の論文に投稿し、その一部は日本建築学会計画系論文集に掲載された。また、国際交流協定締結校との研究交流を推進し、国際共同論文の発表も行った。
社会貢献	0.15	各種公共団体の委員会委員として建築関係者及び市民に対して委員会活動を通して社会に貢献する。	0.15	那覇市建築審査会会長、各種建築関連委員会及び建築設計競技等の委員としての活動により県内の建築関係者及び市民に対して広く社会貢献した。
管理運営	0.20	国際交流担当副学部長として工学部の国際交流を推進すると共に、各種学内委員の任務を遂行する。	0.20	国際交流担当副学部長として工学部の国際交流を推進した。具体的には、キングモンクット工科大学ラカバン校建築学部とのダブルディグリープログラム協定に基づき留学生を派遣し、また、次年度受入留学生の受入を決定した。さらに、国費特別枠留学生プログラム「スマートシティ人材育成プログラム」の次年度選考において基準を満たした応募者のうち重点地域から5名、うちインドから3名を選定し、特別プログラム申請時の調書で計画した目標を十分に達成した。全学委員会では、国際交流に関する自己点検・評価委員会と国際教育専門委員会委員を務めた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	清水　肇	所　属	工学部工学科建築学コース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	専門教育、共通教育の授業を、学生との意見交換方法などを改善し効果的に実施する。	0.35	専門教育、共通教育において、クォーター開講の授業で長時間の現地学習プログラムを初めて取り入れるなど、授業の改善を行った。 学生の提出物等を通じたフィードバック型の課題については、学生からの高い評価を得た。
研究	0.30	生活空間連研究を進め、学会および学会誌にて発表を行う。 外部資金（おきぎんふるさと創生基金）を獲得し、研究助成を得て研究を実施する。	0.30	学童保育学会大会での発表、都市計画学会学会誌の査読付き論文の採択と発表など、研究課題に沿った研究成果の発表を行った。
社会貢献	0.15	沖縄県、那覇市、浦添市、糸満市、八重瀬町、読谷村他の自治体委員の職を通じて地域のまちづくりに貢献する。学童保育施設整備に関わる施策への関与により沖縄県内の学童保育の改善に貢献する。 公開セミナー等を積極的に実施する。	0.15	沖縄県、那覇市、浦添市、糸満市、八重瀬町、読谷村他の審議機関の委員（委員長を含む）を多く務めた。 学童保育施設整備について県内10箇所の研修活動に貢献した。 公開のセミナー、研究会を月1回以上実施を重ねた。
管理運営	0.20	入試委員として工学部の入試運営等についての業務に貢献する。 全学の障がい学生支援室委員、ジェンダー協働推進室委員他の委員会を通じて、大学の管理運営に貢献する。	0.20	工学部入試委員、大学院改組WG委員、全学の障がい学生支援室委員として大学の管理運営に貢献した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	堤　純一郎	所　属	工学部　工学科　建築学コース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	授業科目については、カリキュラム通りに授業を進行することを目指し、悪くとも1回の誤差以内に抑える。定年退職まであと2期に迫ったので、今までの授業科目の内容をまとめて、引き継げるように資料作成に着手する。研究室の大学院生の指導では、特に、博士後期課程の学生の指導を強化して、修了者を出せるように、少なくとも論文提出要件を整える。	0.20	学士課程の学生に対しては、かなり細かい指導をして、十分な成果を上げるとともに、就職先も全員、希望通り、私からすれば期待以上の有力企業に決めることができた。博士前期課程については、細いかい指導をしてきたが、一人だけ期待通りに成長していない。博士後期課程の学生に対しては、学生自身の能力を十分に引き伸ばしてやれない部分があり、指導が十分でないところがあった。
研究	0.25	沖縄県の公的資金を受けて進めている新エネルギー開発事業に関する研究において、実用化レベルを目指して基礎的な問題点の解決を目標とする。アジア・太平洋環境研究者ネットワークの活性化と拡大を、南太平洋大学と共に進める。	0.22	公的資金を獲得している受託研究は、研究リーダーとしてしっかりした研究体制を形成して研究を推進することができた。産学連携の研究についても同様であり、他にも多数の研究に関する問い合わせに応えてきた。一方、環境研究者ネットワークの形成については、足踏み状態であったが、沖縄県内のリサイクル関係ネットワークの構築は一歩進んだ成果を残した。
社会貢献	0.25	多数の国、県、市町村等の自治体における各種委員会の効果的な運営に務める。廃棄物処理関係の業界、新エネルギー業界等との連携を強化する。ハワイ一沖縄クリーンエネルギーの海外展開業務を進める。	0.30	沖縄総合事務局を含む国の行政機関、沖縄県、県内の多数の市町村におけて、かなり多くの専門委員会、審議会、検討委員会等を務め、多くの委員会等では委員長又は副委員長として、多数の成果を残してきた。また、県内のエネルギー、廃棄物処理団体、米軍技術者等との関係を強化した。
管理運営	0.25	建築学コース長および環境建設工学科長として、コースと学科の円滑な運営と活性化に努める。全学では、エコロジカルキャンパス推進員会企画部会長として、全学の環境目標を設定し、エコキャンパス化を推進する。	0.28	学科長、コース長として、学務、人事、入試等の学科及びコースにおける多くの仕事を滞りなく処理してきた。全学のエコキャンパス推進委員では企画部会の主査として、基本的な方針の決定から全学への指示、環境報告書の編集など、多くの成果をあげてきた。また、国際交流ハワイ部会の委員として、協定30周年記念シンポジウム等に協力し、その成功を導いてきた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	山田　義智	所　属	工学部　工学科　建築学コース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学部・大学院前期課程および大学院後期課程の授業は学生の理解が進むよう講義する。卒論・修論では，研究の楽しさと，その成果を社会に還元する重要さを教える。特に修士課程学生と博士課程学生には学会発表や査読論文投稿を積極的に行うよう指導する。 研究室配属の学部学生(4名）および修士課程学生（6名）の進路について，十分に把握・指導して有意義な学生生活を送れるよう助力する。 博士課程の学生（2名）には学位取得に向けて指導する。	0.30	学部学生の授業は，アンケート結果も良好であった。卒論生は全員卒業研究の単位を取得できた。修論生は当初3名であったが1名は休学した。残りの2名は修論を完成させた。修士学生4名は建築学会全国大会などの国内学会での発表を行った。また，修士学生2名は韓国での国際シンポジュウムで発表（英語）を行った。以上のように，学部および修士学生については目標通りの指導を行えた。一方，博士課程の学生については，D1の学生については，順調に査読論文も提出できたが，D3の学生は，本人が精神的に不安定となったことや，大学を離れているため十分な指導が行えていない。
研究	0.30	フレッシュコンクリートのレオロジーに関する研究では，科研費基盤(B)の代表者として継続内定（2年目）を得ており，研究を積極的に進める。フライアッシュの有効利用に関する研究を企業と共同で行うことを目標とする。また，飛来塩分の輸送量推定手法を用いた塩害ハザードマップ作成に関する研究を進める。これらの研究成果として査読付論文を投稿するほか，さらなる外部資金の獲得を目指す。	0.30	科研基盤（B)のフレッシュコンクリートのレオロジーに関する研究は，予定通り研究を進めることができた。フライアッシュの有効利用に関する企業との共同研究も行えた。また，飛来塩分に関する研究もデータを収集することができた。査読論文は建築学会論文集を含めて2件が採択された。現在，4件の査読論文を投稿中である。また，奨学寄附金を含めて外部資金を獲得することもできた。以上のように，研究については目標を達成できた。
社会貢献	0.20	日本建築学会の各種委員会活動（3件）やコンクリート工学会の各委員会活動（3件）および擁壁製造委員の全国規模の委員会活動の他，県内の各委員としてその責務をはたす。また，日本建築学会九州支部の材料施工委員会委員長としての責務もはたす。	0.20	日本建築学会とコンクリート工学会の各委員会の役目をはたすことができた。全国および沖縄県内の各委員も責務をはたすことができた。特に与那原町庁舎検討委員会および沖縄県生コンクリート監査委員会では委員長を務めた。また，日本建築学会九州支部の材料施工委員長および沖縄支所長としての責務も果たした。以上，社会貢献については目標を達成できた。
管理運営	0.20	工学部および理工学研究科の各種委員を務める。教授会や学科会議・コース会議・専攻会議等には，積極的に出席して組織運営の一助とする。	0.20	工学部及び理工学研究科の各種委員を務めた。教授会や学科会議・コース会議・専攻会議などには，出張や年休以外は出席して組織運営に協力した。以上，管理運営については目標を達成できた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	CASTRO　JUAN　JOSE	所　属	工学部　工学科　建築学コース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	・学部科目：「建築構造力学I」、「構造設計Ⅱ」、「建築基礎構造」及び「建築防災工学」等を担当し、一級建築士の水準を満足するような講義を行う。 ・大学院科目：「防災設計特論」を担当し、留学生を含む大学院生を対象とした講義を行い、大学の国際化に務める。 ・特に1年生の講義では時間外に特別講義を設け、理解度を高めるように努める。 ・大学院生には学会発表や査読付き論文の投稿に指導する。	0.30	・学部生の講義についてのアンケートによりその評価が良好であった。講義内容の改善に務めた。さらに補習講義として、特別講義を行い理解を深めさせるように務めた。 ・ 日本建築構造技術者協会（JSCA）と共同主催で、一線で活躍されている建築家を招き、ワークショップ（模型構造物コンペティション）を開催し（参加者約100名）、キャリア形成に役立ったと好評であった。 ・国内学会では、大学院生3名の論文投稿及び発表の指導を行った。「平成30年度沖縄ブロック国土交通研究会」において、指導した大学院生一名の論文発表が優秀賞を受賞した。 ・インターネット教育（COIL)プログラムの拡大のためハワイ大学（工学部、都市計画研究科）と交渉を進めて、平成３１年度より実施できるようにした。 ・アルゼンチンのラプラタ大学の大学間協定を実現し、ドミニカ共和国のイベロアメリカナ大学との交渉を進めた。
研究	0.30	・沖縄県農林水産部森林管理課と連携し、「沖縄県における森林資源の建物構造部材への活用」の関連研究を継続する。 ・科研採択研究の「萌芽・分担」の遂行を行う。 ・審査付き論文を投稿する。 ・外部資金獲得を目指す。	0.30	・国内学会及び専門研究会において、木造（9編）、台風（1編）、鉄筋腐食（1編）の合計11編の口頭発表を行った。現時点で2編の審査付き論文を投稿中である。 ・研究資金として、高橋産業経済研究財団と科研費（分担）を獲得した。 ・研究交流として豊橋技術大学と留学生を含めた英語による合同セミナーを立ち上げた。 ・学内の「平成３０年度　産学官金共同研究スタートアップ支援事業」の支援を獲得し、沖縄県産材の有効利用の研究を進めた。 ・平成３１年度の科研費に申請した。
社会貢献	0.15	・JICA研修員（建築研究所）を対象とした「構造解析」の講義を担当し、発展途上国への技術協力の一環とした研修コースを通して国際貢献をする。 ・日本建築学会沖縄支所評議員として社会貢献をする。 ・沖縄県建築設計サポートセンター耐震診断判定委員会の耐震判定委員長として責務を果たす。 ・沖縄県耐震化促進支援会議、会長として責務を果たす。	0.15	・JICAの研修コースの研修員（建築研究所）を対象とした「構造解析」の講義を担当し、発展途上国への技術協力を目的とした国際貢献をする。 ・日本建築学会沖縄支所評議員として会議に参加する。 ・沖縄県建築設計サポートセンター耐震診断判定委員会の委員長及び沖縄県建築士会の耐震診断判定委員会の委員として責務を果たす。 ・沖縄県耐震化促進支援会議の会長を務め、簡易診断の状況を取りまとめ来年度の耐震化促進への貢献をした。
管理運営	0.15	全学（大学院教育プログラム委員会、および工学部（国際交流委員会、研究推進委員会）の各種委員を務める。また、教授会・コース会議には，積極的に出席し、その円滑な運営に努める。	0.15	・左記全学及び工学部の各種委員を積極的に務めた。教授会やコース会議にも積極的に参加した。 ・全学的な国際交流促進の一環として、海外の協定校の開拓及び具体的な交渉を主導した。
進路指導	0.10	・オフィスアワーによる学生支援を行う。 ・卒論生、修士学生の指導を十分行う。 ・建築学コース1年次の指導教員としての責務を果たす。	0.10	・研究室配属の学部学生(3名）および大学院生（5名）の進路について，十分に把握し、指導を行った。 ・建築コース1年次の指導教員としての個別指導などを通して責務を果たした。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）					
名　前	入江　徹	所　属	工学部　工学科　建築学コース	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	建築計画系科目、建築設計製図科目、ゼミなどにおいて、学生に国内外の建築デザインに関する動向や実例の情報提供を行う。	0.30	建築デザイン・建築設計系科目、ゼミなどにおいて、学生に国内外の建築に関する最新情報の提供を行った。また、学内の合同設計発表会や協定校との学生ワークショップを開催した。
研究	0.30	建築における最先端デザインの探求を実験的に行う。	0.30	各地の現代建築の視察を行うなど、建築における最先端デザインの探求に務めた。
社会貢献	0.15	学外委員会などを通して社会に貢献する。	0.15	6月前半までは、日本建築学会九州支部沖縄支所常任幹事として支所運営に貢献した。また、各種学外委員会委員として貢献した。
管理運営	0.15	URGCC委員、情報委員、交通安全委員として業務に従事する。	0.15	各委員として業務に従事した。特にURGCC委員として、コースのシラバスチェックなどの業務に貢献した。
進路指導	0.10	大学院進学や将来的活動に対して、学生に必要な情報を提供し、指導を行う。	0.10	学生の卒業後の進路や将来的活動などに対する情報提供を行い、準備しておくことなどについて指導を行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。	□　学外公表に同意しない。　□　学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	小野　尋子		所　属	環境建設工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	アフガニスタンからの留学生3人の指導では、日本の都市計画制度との違いをしっかり認識してもらえるように指導する。また今年は4年生6人、修士論文6人と論文学生が多いので、きめ細かい指導で進め、学会発表などができるレベルまで指導する。必修の建築法規を新しく担当するので、講義内容や資料を作成する。	0.35	建築法規の講義を前任の先生から引き継ぎ構築した。研究室の教育では、日本の都市計画技術を学びに来た博士前期課程の留学生達が帰国後に国毎の制度の違いを認識した上で再開発の実務に当たれるよう細かく指導した。今年度9月に日本建築学会から優秀修士論文賞を、12月には若手優秀発表賞授与され、本学の教育水準の高さを示せた。
研究	0.35	科研採択研究の継続研究の遂行を行う。日本建築学会をはじめとする査読付き学会論文に投稿する。国内外の学会で学会発表を行なう。	0.35	研究の成果を国内外学会にて発表した。査読付き論文では、建築学会計画系論文集2本、国際学会を22本投稿し、採択された。査読無しの学会発表では、27本行った。国内学会からは九州建築賞、国際学会からは2件のベストプレゼンテーター賞を授与いただき、研究水準の高さを示せた。
社会貢献	0.10	普天間飛行場跡地利用計画や西普天間住宅地区など、県内の実際の取り組みと連動するかたちで研究・教育をすすめ、成果を還元する。また各種委員会、審議会での学識者としての務めを果たす。	0.10	沖縄県の環境影響評価審査会、普天間飛行場跡地利用計画策定有識者意見懇談会、沖縄県建築審査会、市町村都市計画審議会などの委員を務め、社会貢献を行った。
管理運営	0.10	グローバルエンジニアリングコースの立ち上げに向けて教育委員会の職務を行う。	0.15	GEコースの立ち上げについては、運営の仕組みの立ち上げにとどまったが、来年度以降の3年次の工学部共通科目のコース間調整において、カリキュラム調整と校正の業務が大きく、それを務めた。
進路指導	0.10	研究室学生たちの進路指導を行う。また進路指導の一環として、研究室を越えて大学院生の二級建築士合格に向けた学習支援講座を行う。	0.05	進路相談にあたり、公務員、民間企業へ送り出した。二級建築士合格に向けた学習支援講座では、研究室内外の学生を受け入れ、希望していた4名のうち3名が学科試験高得点(8割以上)で合格することができた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　☐ 学内公表に同意しない。　☐ 学内公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	中田　幸造	所　属	工学部　工学科　建築学コース	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	できるだけわかりやすく興味を持てるように講義する。講義時間外も随時質問を受け付け，学生の理解が進むように努力する。 1年次指導教員としての役目をしっかり果たす。 勉強意欲や進学意欲が高まるように研究室4年次の質問に分かりやすく答える努力をする。	0.40	理解しやすい講義に努めた。1年次指導教員としての役目を果たした。研究室4年次の質問には随時対応した。以上より，目標を達成できたと考える。
研究	0.30	査読付き論文を投稿する。外部資金の獲得に努める。	0.30	コンクリート工学年次大会2018（神戸）に論文を発表した。2018年度日本建築学会大会で研究発表を行った。コンクリート工学年次大会2019（札幌）に論文を投稿した。2019年3月の日本建築学会九州支部研究報告（大分）で研究発表を行った。科研費（基盤研究C）が継続採択されている。外部資金3件に応募した（科研費前年度応募，鹿島学術振興財団，沖縄しまたて協会）。よって，目標は達成できた。
社会貢献	0.20	沖縄建築士事務所協会耐震診断判定委員会の耐震判定委員，総合事務局総合評価委員として責務を果たす。また，総合資格学院の1級建築士講座学科Ⅳ講師として，学外においてもわかりやすい講義に努める。	0.20	耐震判定委員，総合事務局総合評価委員，沖縄防衛局総合評価アドバイザー，1級・2級建築士講座非常勤講師としての責務を果たした。これら以外の市や県，民間からの専門的な依頼に協力した。
管理運営	0.10	施設環境委員など担当委員の職責をしっかりと果たす。	0.10	施設環境委員会委員，島嶼防災研究センター運営委員，大学院理工学研究科学務委員会委員，施設運営部総合評価委員会委員としての責務を果たした。以上より，目標は達成できた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐　学外公表に同意しない。　　☐　学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	仲松　亮	所　属	工学部　工学科　建築学コース	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	1年次の基礎科目では、復習やレポード課題など講義外学習のチェック体制をより確実にするため、その方法や実際の課題出題量のバランスを調整する。数学関連の講義は、前年度、学力の低い学生らのレベルアップに注視したが、その結果として講義のレベルが少し落ちてしまったため、今年度は全体的なレベルアップに努める。本年度4年次の指導教員として就職活動や卒業までの学業を指導・サポートしていく。	0.25	1年次の基礎科目では、より主題に集中できるように講義内容や課題の出題方法を変更した。その結果、学生の課題への取り組みやすさは向上した。数学関連の講義は、理論からやや技術面よりの内容に変更して実施して一定の成果は得られた。本年度4年次の指導教員として就職活動や卒業までの学業を指導・サポートした。島嶼環境での環境施策について、学生の学習をサポートした。
研究	0.50	前年度に引続き、いくつかの産官学連携の研究プロジェクトに参加する予定。継続している研究についても実験・調査等を進める。既存の研究の研究データを成果としてまとめる。専門知識、また関連する知識の向上に努める。	0.60	前年度から続いて産官学連携の研究プロジェクトに参加。実験機器・設備の整備に予想外に時間がかかり、大きく業務ウェイトを取られた。環境・エネルギー関連の新技術について積極的に調査を行い、知識向上に努めた。
社会貢献	0.05	環境工学関連のシンポジウムの計画・実施に協力する。	0.05	11月に実施された「おきなわ建設フェスタ」に3Dプリンタの実機と建築モデルの印刷物を出展。実機による出力実演も実施した。
管理運営	0.10	工学部の各種委員会委員として運営に協力する。建築学コースのWebページの作成、改善を行う。	0.10	高専連携委員として平成30年度琉大工学部・沖縄高専学生研究発表交流会の開催・運営に協力。建築学コースのWebページは、大幅な変更が必要であると判明したが、時間がかかると予想されるため、近日中に簡易版を公開する。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	金城　春野	所　属	工学部　工学科　建築学コース	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	・昨年度開講した「建築デザイン基礎」は前回の反省点を生かして、取り組みやすく興味が持てる課題作りに努める。 ・建築設計製図系科目については、学生の創造性を尊重しながらさらに伸ばせるよう、一緒になって考え建築設計の楽しさを共有できるよう努める。 ・3年次指導教員として、インターンシップや就職活動情報の提供などに努める。	0.40	・「建築デザイン基礎」では作図手順説明に時間をかけることで、出席学生全員が達成目標に到達できた。 ・建築設計製図系科目では学生の考えを共有し、設計過程も重視して取り組むことができた。 ・就職担当教員として、インターンシップ先と学生の調整や、就職情報発信の業務を行った。
研究	0.40	・科研費の共同研究が最終年度にあたるため、まとめ作業を行う。 ・査読付き論文に研究成果を発表する。	0.40	・学会発表、査読付き論文の投稿ができた。
社会貢献	0.10	・日本建築学会の卒業設計展を運営する。	0.10	・日本建築学会の卒業設計展を運営し、学内外から参加者があった。
管理運営	0.10	・委員会活動に取り組む。	0.10	・各種委員会の活動に取り組んだ。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

□　学外公表に同意しない。　　□　学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	崎原　康平	所　属	工学部　工学科　建築学コース	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	建築学コース2年次の指導教員として，次年度以降のモデルケースとなるよう，学生に対し適切な指導を行う。前期の建築構造力学Ⅰ（演習担当）および建築構造力学Ⅲでは，学生の理解が深まるよう講義内容の充実に努める。また，後期の建築材料構造実験では，安全かつ円滑に講義が進められるよう細心の注意を払いながら進めるとともに，理論的・実務的な内容の補足説明等も充実させる。	0.30	GEプログラム登録や新設科目など，本学年の学生が対象となるプログラムや科目等に関し，事前のアナウンスや履修等の適切な指導を行った。前期の建築構造力学Ⅰ（演習担当）および建築構造力学Ⅲでは，レポートや小テストを充実させ，学生の基礎学力の向上に努めた。後期の建築材料向上実験では，安全・安心かつ円滑に講義が進められるよう細心の注意を払いながら進めるとともに，理論的・実務的な内容の補足説明等も充実させた。
研究	0.40	本年度は，「人工知能を応用した塩害環境評価システムの開発，若手研究」に採択されたことから，本研究を推進させる。また，得られた研究成果は，国内外の学会へ積極的に論文投稿および発表を行う。レオロジー関連の研究も同様に，研究成果をまとめ論文投稿・学会発表を行う。	0.40	本年度の研究で得られた成果を，AILCD2019（国際会議）で発表を行った。また2019年度日本建築学会大会（北陸）および第19回コンクリート構造物の補修，補強，アップグレードシンポジウムに論文を投稿予定である。レオロジー関連の研究では，日本コンクリート工学会年次論文報告集に論文投稿を行った。
社会貢献	0.20	戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の研究メンバーとして産学官が連携した技術講習会を開催・運営する。また，日本建築学会材料・施工委員会委員として，日本建築学会九州支部報告の運営が円滑に進められるよう努める。	0.20	戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の研究メンバーとして，沖縄県内での構造物維持管理技術の実装およびインフラ診断ドクターの育成に関する最終報告書を取り纏めた。社会貢献では，第3回おきなわ建設フェスタにおいて，折り紙建築を出展し，子供たちが建築業界に興味を持ってもらえるよう尽力した。
管理運営	0.10	社会連携委員会およびオープンキャンパス委員会委員として，大学における安全かつ円滑な運営に寄与するととに，その他学部・学科内の管理業務等を積極的に行う。	0.10	社会連携委員会として，工学部講演会主催のキャリア形成支援セミナーを開催した。セミナーには多く学生および企業が参加し盛況の中無事終えることができた。オープンキャンパスでは，当日の運営が円滑に進められるよう尽力した。また高校生を対象に，建築学コースの魅力を積極的にアピールすることができた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	玉城 史朗	所　属	工学部　工学科　知能情報コース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	知能情報コース工学科基礎教育科目である「離散数学」の講義について，学生により理解を深めさせるため，講義・演習を含めた教科書を執筆している．そして，学生からのフィードバックを反映させて，充実した講義になるよう努力した。その他，学生の目的意識を高めるための講義を行った。また，今年度就職担当であるため、学生の主体性を重視した就職支援活動を行う。	0.30	知能情報コース工学科基礎教育科目である「離散数学」、「工業数学Ⅱ」の講義について，学生により理解を深めさせるため，講義・演習を含めた教科書を執筆している．そして，学生からのフィードバックを反映させて，充実した講義になるよう努力した。その他，学生の目的意識を高めるための講義を行った。また，今年度就職担当であるため、学生の主体性を重視した就職支援活動を行った。
研究	0.35	沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業プロジェクト「CO2施用と冬季補光によるマンゴー増収量システムの開発」を受託しており、IoTを中心とした、高度精密農業の推進に農学部「教員（3名）と共に取り組んでいる。また、ウェザーニューズ社との共同研究として取り組んでいる。今年度はすでに掲載決定論文2編、国際会議2編が決定している。目標は国際誌論文4編、国際会議4編である。	0.30	沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業プロジェクト「CO2施用と冬季補光によるマンゴー増収量システムの開発」を受託しており、IoTを中心とした、高度精密農業の推進に農学部教員（3名）と共に取り組んでいる。また、ウェザーニューズ社との共同研究として取り組んでいる。その成果として、今年度の採録論文は国内誌3編、国際誌4編、国際会議4編であった。
社会貢献	0.15	産官学共同研究として、「冷熱を用いたクーリングファームによる高付加価値果実の生産システム構築」を手掛けており、これまでの研究成果を社会に還元している。また、公益法人沖縄情報産業連合会理事として県のIT産業育成に取り組む。特にIoTとその産業分野の応用を社会に広くに付録アピールしている。	0.20	共同研究を二件受託して順調な成果を得た。また、総務省主催のWeb×IoT メイカーズチャレンジ 2018-19 in 沖縄の世話役を行った。さらに、県の委託授業（県公衆衛生協会受託）のサイエンスリーダー育成講座の世話人を行い、それぞれのグループが、その成果を3月9,10日電気学会主催の研究会での発表予定である。
管理運営	0.15	今年度から、情報工学専攻の専攻主任として大学院生の学業の心構えを指導している。また、就職担当として、学生の就職活動支援を行っている。さらに、本学の輸出管理マネージャーとして、全学の知的財産が、不当に第三国に輸出されないような仕組み作り、管理を行なう。	0.15	今年度は、情報工学専攻の専攻主任として大学院生の学業の心構えを指導している。また、就職担当として、学生の就職活動支援を行っている。さらに、本学の輸出管理マネージャーとして、全学の知的財産が不当に第三国に輸出されないような仕組み作り、管理を行い安全保障に対する新たな枠組みを策定した。
	0.05	学生が主体であるキャンパスの清掃、緑化をも目的として定期としたエコキャンパス委員会の世話人を務め、特に、在来種芝の植栽を学生たちと共に行った。特に在来種を保護するための集中講義のサポートを行う予定である。。	0.05	学生が主体であるキャンパスの清掃、緑化をも目的として定期としたエコキャンパス委員会の世話人を務め、特に、在来種芝の植栽を学生たちと共に行った。特に在来種を保護するための集中講義のサポートを行った。
計	1.00		1.00	

※当該シー，

□　学外公表に同意しない。　　□　学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	和田　知久	所　属	工学部　工学科　知能情報コース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	1）担当科目で、JABEE基準並みで実施をする。 2）技術者の倫理の講義を充実したものにする。 3）学生の海外での活動、外国学生の琉大での活動に尽力する。	0.25	担当科目に例年との変化なくJABEE基準並みで実施を行った。特に、技術者の倫理では、例年通りではあるが、1泊2日の名護青少年の家での合宿グループワークを実施し、アクティブラーニングの実践も行い、1年生の学生達のグループ形成などができた。エヌテック奨学金を利用して、カンボジア工科大学へのB4、M1学生各1名の派遣、インドMMM工科大学へのB4およびM1各の派遣を実施した。また、MMM工科大学より5名のインド人学部学生を工学部に受入複数の学科で1か月の1インターンシップを実施し大いに盛り上がった。
研究	0.25	※外部資金獲得関連2件 1）SCOPE_PHASE2の2年目で外部資金を得て、研究を成果を出す。 2）企業との共同研究、受託研究で、研究成果を出す。 3）大学院学生の国際学会発表を実現する。	0.25	SCOPEフェイズ2では水中ロボットを音響無線通信によりコントロールすることを目標にしており、現時点で予備実験中で3月には良い成果が出せる予定で進めている。SCOPEの受託研究以外に、静岡の水中音響関連の会社と共同研究を実施しており、音響垂直通信システムの製品化が近づいてきている。国際学会発表は1月時点で、修士学生により2件の発表を実施した。2月にさらに採択済み国際学会論文が2件あり、これも大学院学生による発表を予定している。
社会貢献	0.20	1）インド大学との共催のインド開催国際学会を成功させる。 2）研究の実応用として、企業との開発研究に取り組む	0.20	インドUP州でのIEEE系の国際学会に琉大として共催で参加し、学会に教員3名発表学生1名、および同時期に短期留学の2名の学生を派遣し、インドMMMUTと協力して盛大に学会を開催することができた。また、上記研究分野でも記載したが、企業との共同研究により水中垂直音響通信システムの企業からの製品出荷の予定があり、実応用につながってきている。
管理運営	0.25	1）評議員として、全学的、学部での責任を果たす。 2）特に、GEコースの準備を行う。 3）大学院の改組もしくは改革の道筋をつける。	0.25	評議員としての仕事は自己評価であるがまずまず順調に実施できた。GEコースに関しては、準備の手はずはほぼ整っており、実際の学生応募と選考が順調に進むことを期待している。大学院改組に関しては夏に改組WGにより提案文書を作成し、この方向で期末にみけて動き出すところである。
	0.05	1）研究室や周辺学生達の社会性をはぐくみながらの進路指導を実施	0.05	毎年斬新な研究テーマを実施しているが、今年もディープラーニング回路の簡単化、OFDMに変わる通信方式の検討など面白いテーマで学生と楽しく研究活動を実施できた。外国人学生や客員研究員3名や、インドからのインターンシップ生の受入の生活の世話なども実施し、世界と繋がる活動で学生達が元気に成長できている。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	名嘉村　盛和	所　属	工学部　工学科　知能情報コース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	専門教育はJABEE基準の授業を行う。アルゴリズムとデータ構造、並列分散処理では、個々の学生が自らの考え、アイデアをより創出できるような課題内容にする。モデリングと設計では、PBLの教育効果があげられるような工夫を行う。卒業研究、セミナーでは学習教育目標を高いレベルで達成できるよう細かい指導を行う。enPiT2での教育効果をあげるための学生支援、FD活動を積極的に行う。	0.40	担当する全ての科目において国際基準の授業（教育内容および達成度評価）を行った。ソフトウエア開発演習Iでは、学生がPBL形式でチーム開発の基礎を経験を通して学べるような工夫を行なった。卒業研究、修士研究では学生の自主性を生かしながらも細かい指導をすることができた。enPiT2の関連活動として、全国の情報系大学教員、企業エンジニアと協働で議論形式のFDを行なった。
研究	0.35	システム数理、最適化計算、並列処理に関する研究を引き続き推進する。またバイオ情報処理等、学際的なテーマ、および産学連携研究にも積極的に挑戦する。研究成果はできるだけ論文誌、国際会議、国内研究会で報告する。学会活動として電子情報通信学会システム数理と応用研究専門委員会委員長として当該分野の研究を推進する。	0.30	国際会議1件、国際ジャーナル3件が採択された。また、電子情報通信学会システム数理とその応用研究専門委員会委員長として全国各地で研究会を開催するとともに、全国規模の大会でシンポジウム等の企画運営を行なった。さらに、県内企業との産学連携研究を実施し、成果をあげた。
社会貢献	0.10	沖縄県情報通信産業の発展に向けた産学官連携を推進する。人材育成にかかる沖縄県、民間の取り組みに積極的に参加する。	0.10	沖縄県の離島振興、情報通信産業の活性化に関する委員会等に積極的に関わった。ETロボコン運営委員、沖縄地区審査委員長の役割を通して若手エンジニアの人材育成活動を行った。
管理運営	0.20	コースの入試委員長、学部の入試委員として、円滑に入試業務が進むように業務を遂行する。また、社会連携委員として民間企業との連携が深まるように積極的に活動する。	0.20	コースの入試委員長として、入試業務全般が安全かつ効率よく遂行できるように管理を行なった。また、社会連携委員として民間企業との連携を積極的に行なった。将来計画委員会委員として、大学院の将来構想にかかる議論に積極的に参加した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	遠藤 聡志		所　属	工学部　工学科　知能情報コース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	学部専門： 工業数学I(線形代数)、ソフトコンピューティング，人工知能，キャリア実践および工学基礎演習 Webcassを活用し履修者の理解度を適宜把握しながら計画的に行う。 共通教育： 情報科学演習、キャリア特別講義I,II(前後期　計4コマ)、海外キャリア形成入門、海外職場体験、地域企業自治体お題解決を行う。 全学へキャリア関係科目の選択必修化を推進。 大学院科目： 複雑系工学論 改組に伴う31年度新設科目の設計	0.25	学部専門： 工業数学I(線形代数)、ソフトコンピューティング，人工知能，キャリア実践および工学基礎演習を計画的に行った。 共通教育： 情報科学演習、キャリア特別講義I,II(前後期　計4コマ)、海外キャリア形成入門、海外職場体験、地域企業自治体お題解決を実施した。地域お題解決については、内容が琉球新報に取り上げあられた。 全学へキャリア関係科目の選択必修化を推進した。 大学院科目： 複雑系工学論を実施した 改組に伴う31年度新設科目の設計を行った。
研究	0.25	6名の卒業研究、3名の修士論文指導をベースに、機械学習を活用したweb mining、image recognition、open domain で機能するAIに関する基礎研究、応用研究を進める。表情からの感情推定、微妙な表情表現の認識、6Hats モデルを想定した会議発話の分類システム、web 操作タスクの自動化のための強化学習アルゴリズムと学習過程の可視化に関する研究を行う。成果を、情報処理学会、人工知能学会などへ公表していく。 株式会社Lils 共同研究を実施する。	0.25	6名の卒業研究、3名の修士論文指導をベースに、機械学習を活用した研究を進した。自然言語処理に関する研究成果及び深層強化学習に関する成果を9月のFITでそれぞれ1件ずつ公表した。また、自然言語処理に関する成果を12月のWI2研究会で及び3月の情報処理学会で公表した。株式会社Lilsとの 共同研究を実施し、DCGANによる顔画像生成に関する研究、単眼カメラによる深度推定アルゴリズムの開発を進めた。深度推定アルゴリズムの開発成果を次年度6月開催の人工知能学会全国大会に投稿した。
社会貢献	0.25	沖縄県インターンシップ協議会会長 沖縄県海外留学派遣事業審査委員 京都大学との合同デザインスクール キャリア実践の講義を通して、公共施設の清掃ボランティア 地域企業からの機械学習分野の活用に関する相談に対応 ビッグデータ利活用実証実験協議会 沖縄タイムスコラムによるAI技術のトレンド紹介	0.20	沖縄県インターンシップ推進協議会会長 沖縄県海外留学派遣事業審査委員 京都大学との合同デザインスクール キャリア実践の講義を通して公共施設の清掃ボランティア 地域企業からの機械学習分野の活用に関する相談に対応した。 沖縄タイムス及び観光とけいざい紙でAI技術のコラムを22回執筆した。 沖縄職能大学校の運営協議会座長を行なった。
管理運営	0.25	キャリア教育センター長 知能情報コース入試委員会委員 工学部施設委員	0.30	キャリア教育センター長 知能情報コース入試委員会委員 工学部施設委員 の各職務を遂行した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	山田　孝治	所　属	工学部　工学科　知能情報コース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	1)4年次の指導教員として，サポートを積極的に行う. 2)授業に関して，資料の充実に加え，学生の実体験向上型の授業に務める. 3)Webシステム，チャットシステムなどを積極的に使い，学生の利便性を高める.	0.35	1)4年次指導教員として，吉田先生ともにサポートを行えた. 2)授業に関し，資料を充実させ，ビデオ，記事，資料，論文，プログラムデモなどを活用し実体験向上型の授業を行えた. 3)Slackチャットシステムや，Lineグループなど積極的に活用し，学生とのコミュニケーション向上に務めることができた
研究	0.35	1)VR研究，ディープラーニングなど，新規取り組み研究の発表に努める. 2)継続的に行っている車椅子支援システムを発展させ成果を論文にまとめる.	0.40	VR,ディープラーニング，車椅子支援システムに関して研究に取り組み，これらの研究を中心に進めた卒研5名が無事発表を行った，また修士，博士いずれも学会発表等を行うことができた.
社会貢献	0.05	小学校等へのプログラミング教育活動を行う.	0.05	・小学生へのプログラミング教育活動は，今年度は，開催しなかった. ・沖縄県介護ロボットニーズ・シーズ連携協調協議会に加わり，介護現場を視察，ロボット介護活用についての協議を行った.
管理運営	0.25	1)コース長．予算委員会他．それぞれ他の教員を患わせることなく，状況を良くできるように対応する. 2)工学部高専連携委員会委員長として，今年度も高専との学生研究発表会を成功させ，高専との共同研究の拡張を進める.	0.20	1)コース教員の協力を得，コース運営をうまく行うことができた. 2)今年度も高専との学生研究発表会を行い，高専29件，工学部22件ポスター発表を行った.
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	河野　真治	所　属	工学部　工学科　知能情報コース	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	[授業] Programming 3,4 では、Unity によるゲーム作成を行い、Global Game Jam への参加を目指す。[授業] OSの授業で cmakeを積極的に利用する。KVM/Docker のより実践的な課題を用意する。	0.25	[授業] Hololens を使ったゲーム、HMD+手認識装置を使ったゲームなどを作成した。Global Game Jam に琉大主導で参加した。[授業] Docker の例題を作成した。Automaton の授業を Agda の記述を積極的に使用する方法で実現した。
研究	0.50	[Gears OS] X.v6 の書き換えによる kernel 部分の実装を行う。 [Christiey/Jungle] 木構造を基本としたオブジェクトベースのファイルシステムとしての可能性を探る。Christie にAlice の機能の移植を行ない、Jubgle とコードを統合する。分散機能と持続機構の再実装を行う。CbCによる再実装の準備を進める。 [Continuation based C] 並列実行部分とメモリ管理部分の性能分析を行ない、実装の改良の方法を調べる。 [CbCの理論] 二分木と赤黒木の証明を進める。Agda のソースコードを読み、解析を行う。	0.50	[Gears OS] x.v6 の書き換えを一部実装した。 [Alice/Christe] Block Chain の実装を行ない、Christie の機能の向上ができた。 [Continuation based C] GCC [CbCの理論] Hoare Logic に関する拡張を実装し発表した。
社会貢献	0.05	[Open source conference]で並列信頼研発のソフトウェアの紹介を行う。 [Java Kuche] 社会人、学生を対象とした、Java、ソフトウェアフレームワークの勉強会の 団体であるJava Kucheのサポートを行う。 [学会] 沖縄で行われるOS研究会のローカルアレンジメントを行う	0.10	[Open source conference] GCC と LLVM の内部実装に関する発表をおこなった。 [Java Kuche] Agile に関する成果発表に参加した。 [学会] OS研究会をホテルモントレーで開催した。
管理運営	0.10	[サーバ管理] 学科のサーバと各研究室のサーバの連携を考える。クラウドの使用率を上げる。	0.10	[サーバ管理] Wordpress 関連のincident に対応した。次期システムの設計に関する試用機(Pure Storage)の評価を行った。
進路指導	0.05	修士の学生に、スケジューリングを意識した就活を提案する。3年次の学生にプログラミング3,4を通して自分でアピールできる プロジェクトを達成させる。多様な就職先を提案する。	0.05	修士の学生に、スケジューリングを意識した就活を提案できた。3年次の学生にプログラミング3,4を通して自分でアピールできるようにした。プロジェクトを達成を通して、多様な就職先を提案できた
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	長山　格	所　属	工学部　工学科　知能情報コース	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	専門科目における学生の実践力向上を図る。データベースの講義では実践力を養うためフリーDBシステムを授業で活用する。数理計画とアルゴリズムでは、数値計算パッケージを用いた大規模計算演習を実施し、学生の応用力・実践力を養う。また、enPiTに基づく実践型教育プログラムとスクラム開発を活用した授業を行う。また、共通教育に情報科学演習を提供し、年次指導教員を担当する。	0.25	講義（データベースシステム）（数理計画とアルゴリズム）では目標通りフリーDBソフトおよび数値計算パッケージを活用した実践的な講義を行った。また（マルチメディア情報処理）では実例に則した例題演習を行うことにより、学生の実践力養成を図った。共通教育科目（情報科学演習）では、実用に即した理解しやすい授業に努めた。enPiT開発演習に参画しアジャイルに基づくプロダクト開発と合同発表を実施・指導した。博士留学生を実質指導教員として指導し学位を取得させた。
研究	0.30	研究成果の査読論文発表を１本以上行うことを目指す。また、国際会議実行委員として企画運営等を行う。研究分野に関する著書執筆編集作業と外部機関との共同研究を進める。さらに、科研費などの競争的外部資金の獲得を目指す。	0.30	査読論文7本、国際会議論文2本を掲載した。競争的外部資金として科研費補助金（基盤C)を継続して獲得した。国際会議IIHMPのプログラム委員、および国際会議ITDM2018の実行委員として会議の企画・運営に参画した。指導修士学生が電気学会論文誌に査読論文を掲載した。また、新しい著書の企画執筆を行い、出版社との編集作業を進めている。
社会貢献	0.20	各種学会・研究会の実施と運営を行い、学術振興事業への貢献、学会集会の計画・実施、ならびに産学交流と社会貢献を行う。さらに、国際会議等の運営委員を担当する。また、地域貢献への対応として、沖縄高専との事業連携や社会人等を対象とする公開授業を提供する。	0.25	電気学会論文査読委員を務めた。IEEE国際会議等の論文レフェリーを担当した。社会人向け公開授業(マルチメディア情報処理）を提供した。沖縄高専とドローン利活用に関する連携活動を実施。また、国際交流ネットワーク構築のため、中国の五つの国立大学の研究者との国際連携・学術交流活動を企画・開始した。
管理運営	0.10	大学入学試験委員、学部教授会、研究科委員会、学生相談委員などの委員会活動およびFD活動に積極的に参加する。	0.10	教授会、学内委員会、FD講演、広報委員会、大学院プログラム委員会、大学個人情報管理委員会、大学情報公開委員会、理工学研究科学務委員会など各種委員会活動に積極的に出席した。また、大学入試2次試験数学委員を努めた。
進路指導	0.10	学生の進学・就職・進路指導・相談等を積極的に行う。また、修士および4年生に対してはゼミ・面談等を通じて進路指導・修学指導を多面的に行う。年次指導教員として修学面などの学生指導を行う。	0.10	学生の進学・就職・進路指導などゼミ指導を実施した。また、特段の対応が必要な場合は個別に学生相談・学生指導および保護者面談を適宜実施し、適切な修学が出来るよう指導を心がけた。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐　学外公表に同意しない。　　☐　学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	岡崎　威生	所　属	工学部　工学科　知能情報コース	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	アクティブラーニングを強化した授業実践と、WebClass活用による学生個別の学習状況提供による改善に取り組む。教職志望学生の個々の特性を活かしながら社会性と実践能力を養成する。研究室学生に対する面談を通して、企業動向や就職活動の心得等を伝え、キャリア設計と創発的活動の向上に取り組ませることで社会的スキルの獲得を促す。留学生を交えて英語によるコミュニケーション機会を増やすとともに、セミナーでの英作文指導を継続的に実施し、研究成果の英文発表（英語による論文作成と国際会議での発表）を実質化する。	0.30	Webclass機能を利用して学生個別の修学レベル提示を逐次行った。例題と演習を多用した授業方法により知識の定着に努めた。ビデオ教材提供は継続して行ない、学生の復習に効果をあげた。教職科目「教職実践演習」を企画・実施し4年次教職志望学生に対する資質検証を図った。4年次に対する卒業後進路指導・相談を行い自己啓発を促進した。研究室学生に対し個人面談を行い、学修状況と進路希望を把握し、修学指導を行なった。4年次に対して面談を通して就学進路希望状況を把握し、社会人スキル獲得のための指導を行った。大学院での講義を英語で実施し、留学生と日本人学生双方のコミュニケーション活性化を図った。卒業研究最終発表について予稿並びに発表方法を全員英語で行った。enPiT事業で学生をPBL指導し成果を評価された。
研究	0.30	大学院学生と共に国際会議2編以上と研究論文2編以上を投稿し、採択を目指す。共同研究を含めた科学研究費と各種研究資金への応募を増やし、獲得を目指す。科学研究費Sの分担研究者として成果に寄与する。企業との共同研究を複数進めるために、定期的な合同セミナーを実施し、企業現場での課題理解とともに、企業研究員への知識・技術提供を緊密に行う。	0.30	研究論文を4本投稿し3本が査読付き論文誌に採択され、査読付き国際会議に2本採択された。企業との新規共同研究を開始し、継続中に加えて計3企業とそれぞれ定期的に研究打ち合わせを行っている。地域連携推進機構共同研究室の利用申請を2件行い採択された。分担研究者として科学研究費Sに採択され、定期的に他大学・他学部研究者と研究会を実施している。
社会貢献	0.10	高大連携事業（プレ実習とインターンシップ生支援）に取り組み、高校生の進学意識向上を支援する。公開授業や人材育成事業に参画し、高度職業人養成に貢献する。学生を交えて社会ボランティア活動（清掃活動等）に取り組む。	0.10	沖縄県立美来工科高等学校との高大連携事業において、教職志望学生による授業実践と高校生インターンシップ支援を行なった。学生と海浜清掃活動を企画実施した。企業からの技術相談に応対し、産学連携の公募案件に1件参画した。デジタルコンテンツ制作人材育成事業へ協力し、県内学生向けセミナーを支援し、ハッカソンイベント審査員を担当した。那覇市と沖縄ITイノベーション戦略センター主催セミナーにおいて一般市民向け講演を行った。
管理運営	0.30	グローバル教育支援機構共通教育運営部門長として、共通教育提供体制の見直し、初年次アクティブラーニング科目の全学実施、大学院共通コア科目設置、教学IR事業等の中期目標達成に必要な事業の企画・実施、制度見直しを行う。同じく授業支援部門長として、コンピテンシー教育センター設置に向けた準備を行う。データサイエンス教育の全学展開に向けたプロジェクト企画と文部科学省への予算申請を行う。広報戦略本部委員として、大学広報誌の企画・編集を行う。RCC事業本部会議委員として、地域連携事業および地域志向教育の企画・推進を行う。教職教科検討委員および教職課程実習委員として、教職志望学生の資質向上と環境整備に努める。工学部教育委員として、改組後の教育カリキュラム検証と改善に取り組む。オンライン授業評価が適切に実施できるよう指導する。	0.30	グローバル教育支援機構共通教育部門部門長及び授業支援部門長として共通教育提供体制の見直し、初年次アクティブラーニング科目実施への体制づくり、教学IR充実のための指標設計、共通教育規則の改定、学修成果評価等を行った。広報戦略本部委員として、SNS利用基本方針の策定を行った。RCC事業本部会議委員として、地域連携事業および地域志向教育の企画・推進に寄与した。工学部教職担当教員として教員志望学生ポートフォリオ指導や手引き作成を行った。また教職教科検討委員および、教職課程実習委員として、教員免許再課程認定への工学部申請を行った。工学部教育委員として、新カリキュラムや運営体制の構築に寄与した。学科オンライン授業評価の実施を指導し全教科で実施した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

□　学外公表に同意しない。　　□　学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	長田 智和	所　属	工学部　工学科　知能情報コース	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	講義科目では、教科書に基づいて基本的な情報システム・情報ネットワーク技術について分かりやすく講義する。実験科目では、学科計算機システム管理を通して、実践的な情報システム構築管理のスキルを習得させる。研究ゼミでは、情報システム・情報ネットワーク技術に関する実践的な研究テーマについて学生に取り組ませる。学生支援については、担当学生が希望する進路(就職・進学等)に進めるようサポートする。特に、就職希望の学生に対しては、就職試験対策（履歴書チェック、面接対策等）を行う。	0.00	年度目標に対して、すべての目標を達成しました。
研究	0.30	情報システム・情報ネットワーク技術を活用した、地域における情報サービス基盤（SDN/クラウド技術やID連携技術など）構築に関する研究を推進する。その過程において、研究会発表、さらには、成果論文発表(ジャーナルへの投稿)に向けて開発成果を蓄積する。 （成果目標：ジャーナル1編以上、口頭発表2件以上）	0.00	年度目標に対して、査読論文の掲載は達成できなかったが、口頭発表などその他の目標は達成しました。
社会貢献	0.20	工学部が沖縄県警と締結している「サイバー犯罪対策に係る連携した取り組みに関する協定」に基づき、国民・県民に対するサイバー犯罪の防止のための捜査員研修や社会への啓発活動に取り組む。また、セキュリティ・ミニキャンプ沖縄実施協議会として、同イベントの成功に向けて取り組む。	0.00	年度目標に対して、すべての目標を達成しました。
管理運営	0.20	学科各種委員会の割り当てられた業務をこなす。また、全学の情報システム運営委員、セキュリティ運営委員等としての職務も、自身の専門性を生かして取り組む。	0.00	年度木法に対して、概ね目標を達成したが、体調不良のため役割量を減らして頂くなど、他の先生方にご迷惑をおかけしました。
	0.00		0.00	
計	1.00		0.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	當間　愛晃	所　属	工学部　工学科　知能情報コース	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.55	H29年度から数年間は、新科目担当および新カリキュラム対応で教育に占めるウェイトが大きくなる見込みである。 (1)卒業研究およびセミナーを通し、研究活性化に結びつくよう学生指導に努める。例年通り、沖縄高専との連携強化に向けた取り組みを実施する。 (2)URGCC、エンジニアリング教育等、今後求められるノウハウを考慮し、プログラミング1,2及び人工知能系科目の設計・実施に取り組む。プログラミング1においてはデータサイエンス業界からの要望でもあるJupyterの演習を増やすことを検討。また、H31年度開講予定の「データマイニング」を検討する。大学院「データマイニング論」の改善にも取り組む。 (3)修士2年次の年次指導として、指導に取り組む。	0.55	(1)担当科目の評価基準を明示し、達成できるよう指導した。また、沖縄高専との交流研究会を継続実施しており、互いに刺激し合えるよう努めた。なお、2018年度は学生のゼミ遅刻欠席が多く、結果として計画的な研究活動ではなく場当たり的な指導に終始しがちであったため、2019年度は指導方法について要検討である。 (2)プログラミング1,2を改善・実施した。特に、プログラミング1においてはJupyterの導入＆演習を盛り込んだ。大学院「データマイニング論」については教科書を1冊に留め、最新論文輪読の割合を増やした。 (3)個人面談・MLを通して指導に努めた。例外的な指導が必要な際には最大限努力を行った。
研究	0.38	(1)学術会議等イベント参加時の情報整理を兼ねたブログ記事の作成。 (2)大学院修士課程の学生と共に学会発表を通した研究活動の公開並びに、研究発展を目指す。 (3)研究交流を行い、研究の幅を広げる。特に、2016年度から初めた機械・宮田先生らとのデータ解析コンペを通した連携強化に取り組む。 (4)国際会議or査読付き論文への投稿を目指す。 (5)現時点でまだ不確定であるが、研究費獲得を伴う他大学との共同研究を検討中である。こちらの進展次第で(3),(4)は見直しが必要である。	0.31	(1)一部を除き、予定通り実施した。 (2)一部発表できていない院生がいるが、3月の発表を含めて合計2件の学会発表となる予定である。 (3)予定通りデータ解析コンペティションへ参加し、また同参加を通した連携模索を行った。 (4)今年度もどちらへも投稿できていない。要改善である。 (5)いくつかの企業・組織と検討を進めているが、現時点ではまだ具体化できていない。改めて次年度以降も模索を進める予定である。
社会貢献	0.06	(1)教育研究活動の学外に向けた情報発信。 (2)デザインスクールにおける「地域課題x他流試合型ワークショップ」の実施。本年度で最後となる予定。また、本イベントで得られた知見を解説記事として作成中。 (3)昨年度のテーマ「子どもの貧困対策」で繋がりを持った施設から、共同研究などの取り組みについての打診が届いており、そのすり合わせを行う。	0.10	(1)学科ブログを通してイベント参加レポートを公開した。 (2)今年度は「沖縄の未来を創る観光施策」というテーマで実施し、沖縄県や沖縄観光速報社らへ協力を頂いた。また、昨年度までの活動を通して得た知見を電子情報通信学会解説記事として作成した。(2月掲載予定) (3)検討を進めたが、先方の人的リソース、双方での予算の問題から具体化には至らなかった。
管理運営	0.01	(1)広報委等の各種委員会活動に積極的に参加する。	0.04	(1)積極的に参加し、運営業務を行った。 (2)情報工学科（知能情報コース）システム入れ替えに伴う検討のため、現システムとその運営に関わるシステム管理チームの会議へも参加をはじめた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	吉田　たけお		所　属	工学部　工学科　知能情報コース	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	学部担当科目（知能情報実験Ⅰ，Ⅱ（情報工学実験Ⅰ，Ⅱ），情報工学実験Ⅲ，Ⅳ、ディジタル回路）を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。学生による授業評価アンケートの集計結果に基づき、授業内容および補助資料の改善を行う。	0.35	情報工学実験Ⅰ～Ⅳについては、授業評価アンケート等の結果に基づき、授業内容および補助資料の改善を行った。ディジタル回路についても授業評価アンケート等の結果に基づき、授業内容および補助資料の改善を行った。今後もより一層改善をする必要があるが、今年度の目標は達成したと考える。
研究	0.30	新規研究テーマでの学会発表および研究論文の採択を目指す。また外部資金を獲得し、実社会に応用できる技術の研究開発に努める。	0.30	新規研究テーマについて、電子情報通信学会の合同講演会において発表を行った。また参加した共同研究において、2本の論文が採録された。外部資金の獲得に関しては達成できなかったので、次年度はこれらを達成できるように努める。
社会貢献	0.05	毎年、沖縄県内で開催されるLSIデザインコンテストの実行委員を務める。	0.05	LSIデザインコンテスト（2018/03/08実施予定）の実行委員として、コンテスト運営に携わった。
管理運営	0.15	学部情報委員、学科教務委員、学科計算機実験委員などの委員会活動に積極的に参加する。	0.15	全ての委員会に積極的に参加し、貢献を行った。
	0.15	学部4年次の指導教員として、当該学生に対する進路指導、修学指導に努める。研究室に所属する学部学生および修士学生に対する進路指導に努める。	0.15	学部4年次の指導教員として、当該学生に対する進路指導、修学指導を行った。また、研究室に所属する学生に対しても進路指導を行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

□　学外公表に同意しない。　　□　学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	宮里 智樹	所　属	工学部　工学科　知能情報コース	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	情報工学実験1、2、3、4を担当する事に加え、情報処理技術概論、ディジタル制御論を担当する。修士の実践演習Ⅰ、Ⅱの適切な実施に向けた支援を行う。文科省事業のアウトプットとして、若手社会人と学生を対象としたIoT人材育成のための実証講座を開催する。	0.20	学科担当科目（情報工学実験1、2、3、4）を担当し、実験2、3においてエンジニアリングデザイン教育の導入を試験的に行った結果、学生の自発的な活動を引き出せた。情報処理技術概論、ディジタル制御論、共に試行錯誤しつつ受講生の理解度の向上に努めた。修士の実践演習Ⅰ、Ⅱに関しては、積極的に関わる事ができなかった。次年度はスケジュール管理に配慮し、関わり方を改善したい。若手社会人と学生を対象としたIoT人材育成のための実証講座の開催は諸事情により見送った。
研究	0.30	大学院博士過程の学生と共に研究論文の採択を目指す。外部資金については、内閣府による「沖縄型産業中核人材育成事業」に申請した。	0.30	文科省による「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」事業が採択され、Society5.0対応人材育成のための調査事業を行った。3年間の事業となる予定であり、本事業の成果を活用し、論文へも繋げて行きたい。
社会貢献	0.20	伊江島地域WiMAXインフラの保守運用に関する技術的サポートを行い、離島環境における情報通信インフラを活用した地域活性化支援を行う。教育者研究会の運営サポートを行う。	0.20	伊江島地域WiMAXインフラの保守運用に関する技術的サポートを行い、離島環境における情報通信インフラを活用した地域活性化支援を行った。教育者研究会の運営サポートを行った。沖縄県情報産業振興課による「IT人材力育成強化事業」の選定委員を務めた。近年取り組んでいる人材育成事業の成果を活用する事で人材育成の側面から社会貢献して行きたい。
管理運営	0.30	予算委員、予算配分、交通指導、計算機実験委員、安全衛生、選挙管理、レク委員などの委員会活動に積極的に参加する。	0.30	予算委員、予算配分、交通指導、計算機実験委員、安全衛生、選挙管理、レク委員などの委員会活動に積極的に参加した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	赤嶺　有平	所　属	工学部　工学科　知能情報コース	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	今年度より担当するプログラミング演習について，プログラミングI,IIと連携して，教育効果を高められるよう工夫する．PBLにテスト駆動開発またはそれに準じた手法の導入を検討する．	0.40	PYTHONを用いたプログラミング初学者向けの独自教材（ゲーム形式のプログラミmング学習）を開発した．PBLにおけるテスト駆動については，UI主体のプロジェクトのため容易ではないため，手法を模索中．
研究	0.40	AR(拡張現実)を用いた史跡等におけるガイダンスシステムの開発を行う．沖縄県立博物館に加えて城跡との連携を模索する．	0.30	ARを用いたガイダンスシステムの基礎技術として様々なアプローチにより物体検出手法を開発した，
社会貢献	0.20	博物館，城跡等と連携しARガイダンスの開発を目指す．	0.20	沖縄県立博物館主催の「グスク展」における展示を前提に協議および開発を進めている．
管理運営	0.10	各種委員会において着実に業務を遂行する	0.10	委員会業務を着実に遂行した．
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	國田　樹	所　属	工学部　工学科　知能情報コース	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	(1)「工学基礎演習」では、チーム活動の基礎技術の育成、および大学での学びに対する自己意識を高めるための演習を実施する。(2)「知能情報実験I,II」では、レポート作成技術の基礎とプログラミングスキルに関する実践的な能力を育成できるテーマを実施する。(3)「情報工学実験IV」では、enPiT2と連携してビジネスシステムアプリケーションの開発をテーマとした実践的演習を実施する。(4)「卒業研究」では、4名の指導学生を対象に学生が講義や演習で習得した知識と技術を活用できるテーマを実施し、学術的な研究の意義を深く考察できるように指導する。(5)知能情報コースの学生相談委員として、傾聴を重視した学生相談を実施する。	0.40	(1)「工学基礎演習」では、履修計画およびフィールド活動を通じた将来設計により、大学での学びの意識向上となる講義を実施した。(2)「知能情報実験I,II」では、TeXによるレポート作成技術の習得とPythonプログラミングの実践的な能力育成に関わる講義を実施した。(3)「情報工学実験IV」では、enPiT2と連携してビジネスシステムアプリケーションの開発をテーマとしたアジャイル-スクラム開発論による実践的演習を実施した。(4)「卒業研究」では、4名の指導学生を対象に論理思考能力の育成に重点をおいて指導した。(5)知能情報コースの学生相談委員として、積極的に学生に声掛けを実施し、学生が修学生活を円滑に進められるようにサポートした。
研究	0.40	(1)昨年度に立ち上げた単細胞生物の行動研究についてジャーナルへの投稿を目指す。(2)昨年度から準備を進めていた生体電気活動計測に関する研究について、福祉機器への応用にターゲットを絞って研究を推進する。(3) 科研費アドバイザー制度を活用して科研費に応募する。(4)学外の研究者との共同研究を進める。	0.40	(1)単細胞生物の行動研究に関する論文を執筆し、今年度末から来年度初めの投稿に向けて準備を進めている。(2)生体情報工学や福祉工学に関する研究について、学生とともに研究基盤の構築を進めた。(3) 科研費アドバイザー制度を活用して科研費に応募した。(4)学外の研究者との共同研究を進め、タンパク質分子の集団挙動に関する共著論文(欧文誌)を発表した。
社会貢献	0.10	(1)enPiT2と連携して、沖縄県内のIT関連企業の方々との交流を深め、沖縄情報通信産業の発展に向けた産学官連携を推進する。(2)国内の高校生を対象に、生物の飼育や生物試料の提供等のアウトリーチ活動を実施する。	0.10	(1)enPiT2と連携して、沖縄県内のIT関連企業の方々との交流を深め、沖縄情報通信産業の発展に向けた産学官連携を実施した。(2)国内の高校生(3校, 約10名)を対象に、生物の飼育や生物試料の提供等のアウトリーチ活動を実施した。研究の助言を実施した高校生が学会の高校部門や高等学校の科学研究発表会で受賞した(2件)。
管理運営	0.10	(1)ハラスメント相談支援センターの学内相談員として、ハラスメント研修を実施するとともに、相談を受けた場合には適切に対処する。(2)ジェンダー協働推進室室員として、ダイバーシティ研究環境整備に取り組む。(3)工学部施設環境委員として、修学就労環境の維持改善に努める。(4)コースの教務委員、学生相談委員、オープンキャンパス委員、社会連携委員として、コース運営に積極的に参加する。	0.10	(1)ハラスメント相談支援センターの学内相談員として相談対応を実施した(5件程度)。ハラスメント防止活動として、工学部内でハラスメント研修(学生向け9回, 教員向け1回)を実施した。(2)ジェンダー協働推進室室員として、委員会に出席して全学的なダイバーシティ研究環境整備に取り組んだ。(3)工学部施設環境委員として、キャンパス清掃や自動販売機設置等に関わる業務を実施した。(4)コースの教務委員として時間割編成を担当した。オープンキャンパス委員として実施運営を担当した。施設委員として研究環境整備(会議室や倉庫の管理)を実施した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。